

小学4年生～中学3年生 400人に聞く
“食事”の実態と“食”とのかかわり

2011年3月

目次

■調査企画	1
■調査結果の内容	5

I 「朝ごはん」の摂取実態

1. 家で「朝ごはん」を食べる回数..... 7

9割弱(87.8%)は「毎日」食べているが、「5・6回」(5.5%)など1割強(12.3%)は“食べない日がある”。平均は、週に「6.6回」

●朝ごはんを“食べない日がある”のは「起きるのがおそいから」(79.6%)が第一の原因

2. 誰と一緒に「朝ごはん」を食べることが多いか..... 9

「きょうだい」(66.6%)、あるいは「母親」(51.8%)と一緒に食べる人が多いが、「一人で」食べることも2割強(23.5%)

●「朝ごはん」を一人で食べる理由は、「家を出るのが家族より早いから」(47.8%)、「いつもみんな好きな時に食べているから」(27.2%)、「家を出るのが家族より遅いから」(26.1%)など

3. 「朝ごはん」にどのようなものを食べているか..... 11

「パン」(76.3%)が「ごはん」(72.7%)をやや上回る

4. 「朝ごはん」を食べるのにどのくらいの時間をかけるか..... 12

「10～20分くらい」(43.6%)、あるいは「5～10分くらい」(38.0%)が多く、平均は「13.0分」

●平均は、《男子》が「12.0分」、《女子》は「13.9分」

II 「夕ごはん」の摂取実態

1. 家で「夕ごはん」を食べる回数..... 13

9割強(91.8%)は「毎日」食べているが、“食べない日がある”人が1割弱(8.3%)。平均は、週に「6.8回」

●夕ごはんを“食べない日がある”理由は、「塾や習い事があるから」(60.6%)、「外で食べるから」(57.6%)が主

2. 誰と一緒に「夕ごはん」を食べることが多いか..... 15

「母親」(90.3%)、あるいは「きょうだい」(84.0%)が主。「一人で」(9.8%)食べる時も

●夕ごはんを一人で食べる理由は、「塾や習い事に行くから」(79.5%)が第一

●夕ごはんを一人で食べても「何とも思わない」(53.8%)

3. 家の「夕ごはん」で好きな料理、おかず..... 17

「ハンバーグ」(64件)、「カレー」(62件)、「から揚げ」(45件)がトップ3

●その料理、おかずは「母親」(92.0%)が作ったものが断然

4. 家の「夕ごはん」に“手作り以外のもの”は、週に何回くらい出るか..... 19

週に「1・2回」(39.8%)、「3・4回」(7.8%)など、“出る”という人が半数強(52.8%)。平均は、週に「1.6回」

5. ふだん何時くらいに「夕ごはん」を食べはじめるか..... 20

「7時くらい」(37.0%)、「7時30分くらい」(19.5%)など、半数以上が“7時台”(56.5%)

6. 「夕ごはん」を食べるのにどのくらいの時間をかけるか..... 21

「20～30分くらい」(33.8%)が最も多く、次いで「30～40分くらい」(27.3%)で、“20～40分くらい”という人が6割強(61.0%)。平均は「28.9分」

Ⅲ 食事や料理に対する意識と実態

1. 家で食事の時どんなことをしているか..... 22

「家族と話をする」(86.0%)、あるいは「テレビを見る」(77.8%)が主

●少数だが「携帯電話で話す、メールをする」(5.5%)も

2. 家で食事の時、家族と話しているのはどんなことか..... 23

「学校で起きたできごと」(74.5%)、「友だちのこと」(59.5%)、「テレビ番組やタレントのこと」(49.5%)がトップ3

3. ふだん、「食事」をどのように食べているか..... 24

マナー通り「おかずとご飯を交互に食べる」(78.0%)ことが断然多いが、「おかずだけ先に食べる」(14.3%)、「おかずを一種類ずつ食べる」(13.3%)、「おかずから嫌いなものを選び分ける」(7.3%)などのケースも

4. 食事を残すことがあるか..... 25

「いつも残す」(1.3%)、「時々残す」(41.3%)など4割強(42.5%)が“残すことがある”

●“残すことがある”割合は、《男子》(37.5%)より《女子》(47.5%)の方が高い

5. 食事を残すことについてどう思うか..... 26

「もったいない」(75.0%)、「作ってくれた人に悪い」(63.5%)など“罪悪感”を持っている人が多い反面、「食べきれない時は仕方がない」(27.5%)、「嫌いなもの時は仕方がない」(12.8%)など“仕方がない”という見解も多い

6. 毎日の食事のほかに、おやつなど「間食」をいつ食べているか..... 27

間食を“食べる”(95.3%)人が大半で、時間帯としては「家で、おやつや夕食までのつなぎに」(81.0%)が断然多い

7. 食事を誰と一緒に食べるときが楽しいか..... 28

「母親」(71.5%)がトップ。差なく「友だち」(68.3%)、「兄弟」「姉妹」を合わせた“兄弟・姉妹”(67.3%)、そして「父親」(54.8%)が続く

IV “食”に関するしつけの意識と実態

1. これまで、料理や食べ物、食べ方について、どのような人や方法から学んできたか 29

「母親」(91.3%)がトップ、第2位に「父親」(55.5%)と、“両親”の教え第一。以下「先生」(36.5%)、「学校の栄養士」(26.5%)、「テレビ番組」(24.8%)の順

●「父親」からは《女子》(49.5%)より《男子》(61.5%)

2. 家で食べ物や食事について、守るように言われていること 30

「食卓に肘をつかない」(72.0%)、「好き嫌いをしない」(66.3%)、「食べ物を粗末にしない」(60.8%)、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(59.5%)、「口に食べ物を入れたまま話をしない」(46.0%)、「はしを正しく持つ」(44.3%)、「食事中に電話やメールをしない」(34.0%)など、“しつけられた”ことは多岐にわたる

●「食事中に電話やメールをしない」は《男子》(23.5%)より《女子》(44.5%)の方が多

3. 『おはし』を正しく持っているか 32

自己判断の結果、7割強(72.5%)が「正しく持っている」

●「正しく持っている」割合は、《男子》(75.0%)の方が《女子》(70.0%)より高め

4. 食べ物や食事について、行ってきたこと 33

「食器をならべる、料理を運ぶ」(67.0%)、「食事後の食器を運ぶ」(61.8%)、「食事の支度」(49.0%)がトップ3

4-1. 『食事の支度』でしていること 34

「お米をとぐ」(71.4%)、「野菜などの皮をむく、切る」(53.1%)、「ご飯を炊く」(46.9%)、「料理を作る」(43.9%)、「野菜などを洗う」(43.9%)など“食事の支度”はいろいろ

●“作る料理”は、「カレー」(34件)、「味噌汁」(13件)、「チャーハン」(11件)がベスト3

5. 食べ物や食事について、父親はどんなことをしているか 36

7割強(73.9%)の父親が、「食品の買い物」(35.8%)、「食事後の食器を運ぶ」(35.8%)、「料理を作る」(35.5%)、「食器を洗う」(32.1%)などをしている

V “食”に関する意識と実態

1. “食”について、知りたいと思っていること・関心があること 38

「料理の作り方」(71.8%)が第一。以下「からだに良い食べ物」(35.8%)、「おいしい食品・店」(35.5%)、「栄養」(29.8%)、「安全性」(23.3%)、「正しい食べ方、マナー」(21.5%)などに関心がある

総じて《女子》の関心は高い

2. “食の安全”への関心度 40

「とても関心がある」(13.3%)、「まあ関心がある」(45.0%)を合わせて、ほぼ5人に3人が“関心がある”(58.3%)

●“関心がある”ことは、「保存期間」(45.9%)、「農薬」(38.6%)、「鳥インフルエンザ」(38.2%)がトップ3

3. ここ1年間の“食”に関するニュースで、印象に残っていること 42

「食べるラー油ブーム」(59.0%)、「鳥インフルエンザ」(57.3%)、「B級グルメ」(36.5%)がトップ3

VI 学校生活における“食”と“農”とのかかわり

1. 『学校給食』が好きか 43

『学校給食』が「ある」人(74.8%:小学校 100%、中学校 49.5%)の7割強が「好き」(72.2%)、「嫌い」な人は少数(5.7%)

1-1. 学校給食について、どのように感じているか 44

「おいしい」(70.2%)、「みんなで食べると楽しい」(61.5%)、「家で食べないメニューを食べることができる」(42.1%)など、学校給食には“良いイメージ”を持っている

1-2. 給食のメニューで、好きな料理、嫌いな料理 45

“好きな料理”は、「カレー」(66件)、「あげパン」(42件)、「キムチチャーハン」(17件)、「ラーメン」(16件)など
“嫌いな料理”は、「特になし」(73件)が多いが、料理としては「豆が入っている料理」(19件)、「ゴーヤチャンプル」「魚料理」(各11件)など

1-3. 給食に地元(自分が住んでいる地域)の食べ物や材料が出てくるか 46

「わからない」(54.8%)という人が過半数を占めるが、4割(39.5%)が「出る」
地元の材料は、「ダイコン」(31件)、「小松菜」(12件)、「はま菜」(10件)がトップ3

2. 学校で、“食”について教わったこと 48

大半の人が、「栄養」(69.5%)、「お米の作り方」(44.5%)、「食の安全」(43.5%)、「料理の作り方」(40.3%)などについて“教わった”(95.3%)

3. 学校でお米や野菜を育てたこと 49

4人に3人強が「ある」(76.8%)
育てたものは、「米」(215件)、「トマト」(72件)、「オクラ」(64件)、「ゴーヤ」(55件)、「ミニトマト」(47件)など
●学校でお米や野菜を育てたことが“ない”人のほぼ半数が育ててみたいと思う(45.2%)

3-1. お米や野菜を育ててみて、どう思ったか 52

「たいへん」(60.3%)、あるいは「むずかしい」(43.0%)が、「楽しい」(57.7%)、「面白い」(29.6%)という感想も多い

4. 補助教材『農業とわたしたちの暮らし』を知っているか 53

「配布されて、授業で使われた」(8.5%)という人は1割未満だが、「配布されて、中を読んだ」(14.3%)を合わせると、“読んだ”人が2割強(22.8%)

調査企画

1. 調査目的

この調査は、東京近郊に住む小・中学生を対象に食事の実態や“食”にかかわる意識と実態を探ることを目的に実施しました。

なお一部、7年前の2004年11月に同様の対象者で実施した調査「親から継ぐ『食』、育てる『食』」（2005年発表）との結果と比較し、その変遷をみていきます。

2. 調査対象

首都20Km～50Kmのドーナツ圏に居住する小学4年生～中学3年生の男女

3. 調査対象の抽出方法

調査地点を無作為に抽出し、地点内に居住する小・中学生を対象とするエリアサンプリング法

4. 調査方法

調査票を用いた自記式留置法

5. 調査期間

2011年3月3日～3月10日

6. 標本構成

有効回収400名の標本構成は以下の通りです（上段：サンプル数、下段：構成比 %）。

F1. 性別

	サンプル数	男子	女子
全体	400 100.0	200 50.0	200 50.0
小学生	200 100.0	100 50.0	100 50.0
中学生	200 100.0	100 50.0	100 50.0

F2. 学年

	サンプル数	小学4年生	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生
全体	400 100.0	65 16.3	68 17.0	67 16.8	65 16.3	68 17.0	67 16.8
男子	200 100.0	32 16.0	35 17.5	33 16.5	35 17.5	32 16.0	33 16.5
女子	200 100.0	33 16.5	33 16.5	34 17.0	30 15.0	36 18.0	34 17.0

F3. 同居している家族

	サンプル数	父親	母親	兄	姉	弟	妹	祖父	祖母	その他の人
全体	400 100.0	383 95.8	400 100.0	105 26.3	109 27.3	142 35.5	123 30.8	32 8.0	61 15.3	2 0.5
男子	200 100.0	192 96.0	200 100.0	56 28.0	50 25.0	77 38.5	60 30.0	14 7.0	24 12.0	0 0.0
女子	200 100.0	191 95.5	200 100.0	49 24.5	59 29.5	65 32.5	63 31.5	18 9.0	37 18.5	2 1.0

F4. 同居家族数

(平均:4.5人)

	サンプル数	2人	3人	4人	5人	6人以上
全体	400 100.0	1 0.3	38 9.5	189 47.3	126 31.5	46 11.5
男子	200 100.0	0 0.0	21 10.5	94 47.0	64 32.0	21 10.5
女子	200 100.0	1 0.5	17 8.5	95 47.5	62 31.0	25 12.5

F5. 塾

	サンプル数	通っている	通っていない
全体	400 100.0	193 48.3	207 51.8
男子	200 100.0	89 44.5	111 55.5
女子	200 100.0	104 52.0	96 48.0

F6-1. 身長

(平均:151.7cm)

	サンプル 数	140cm 未満	140～ 145cm 未満	145～ 150cm 未満	150～ 155cm 未満	155～ 160cm 未満	160～ 165cm 未満	165～ 170cm 未満	170cm 以上
全体	400 100.0	66 16.5	45 11.3	43 10.8	63 15.8	73 18.3	51 12.8	34 8.5	25 6.3
男子	200 100.0	31 15.5	28 14.0	17 8.5	24 12.0	26 13.0	25 12.5	25 12.5	24 12.0
女子	200 100.0	35 17.5	17 8.5	26 13.0	39 19.5	47 23.5	26 13.0	9 4.5	1 0.5

F6-2. 体重

(平均:42.5kg)

	サンプル 数	40kg 未満	40～ 45kg 未満	45～ 50kg 未満	50～ 55kg 未満	55～ 60kg 未満	60kg 以上
全体	400 100.0	96 24.0	62 15.5	67 16.8	71 17.8	52 13.0	52 13.0
男子	200 100.0	42 21.0	28 14.0	26 13.0	32 16.0	30 15.0	42 21.0
女子	200 100.0	54 27.0	34 17.0	41 20.5	39 19.5	22 11.0	10 5.0

調査結果の内容

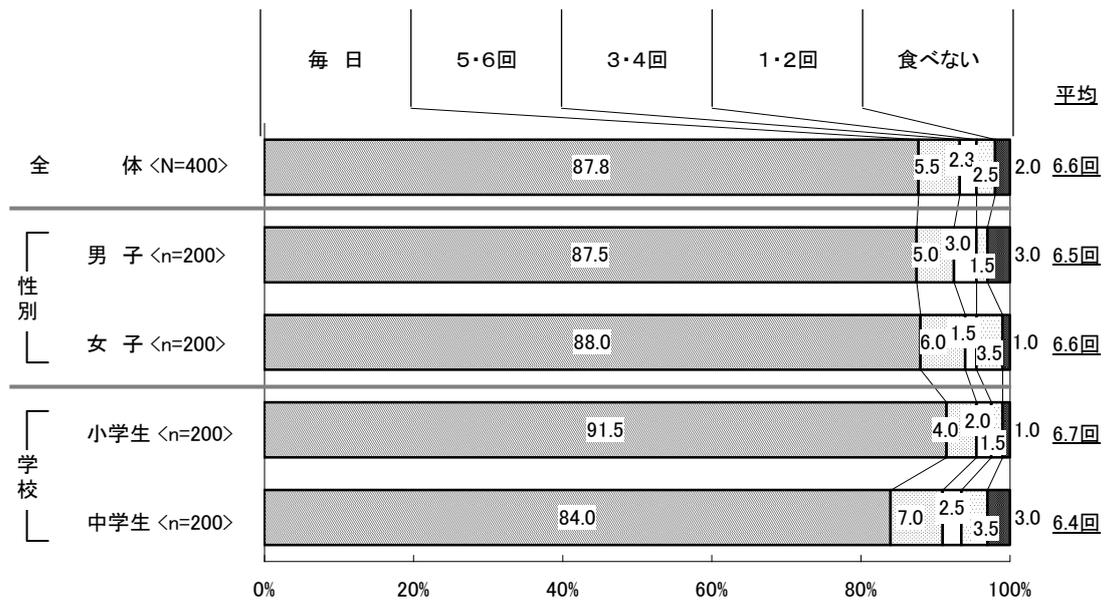
I 「朝ごはん」の摂取実態

1. 家で「朝ごはん」を食べる回数

9割弱(87.8%)は「毎日」食べているが、「5・6回」(5.5%)など1割強(12.3%)は“食べない日がある”。平均は、週に「6.6回」

●朝ごはんを“食べない日がある”のは「起きるのがおそいから」(79.6%)が第一の原因

図 1. 家で週に何回くらい「朝ごはん」を食べているか



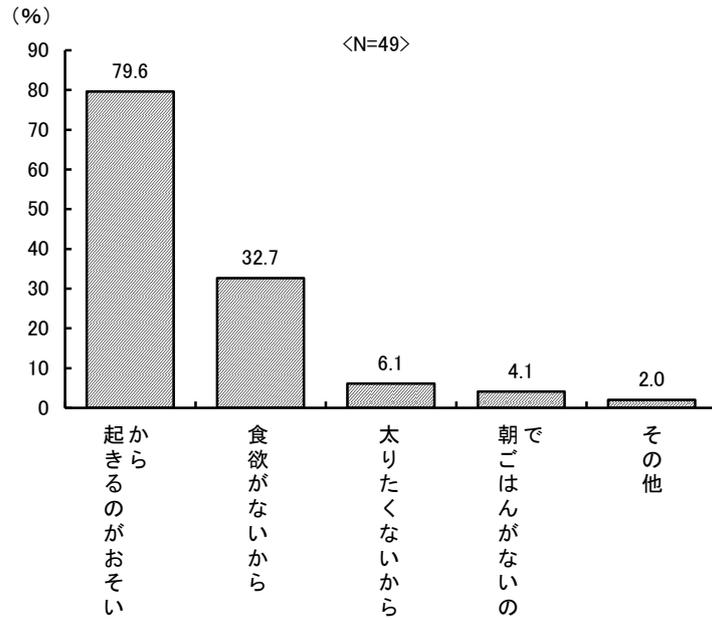
家で週に何回くらい「朝ごはん」を食べているかをみると、「毎日」という人が9割弱(87.8%)と多数を占めていますが、「5・6回」(5.5%)や「食べない」(2.0%)など、“食べない日がある”という人も1割強(12.3%)みられます。平均は、週に「6.6回」となっています。

性別にみると、いずれも「毎日」食べる割合が9割弱など、変わりはありません。

学校別にみると、「毎日」食べる割合は《中学生》(84.0%)より《小学生》(91.5%)の方が高めです。

◆7年前の調査と比較すると、「毎日」食べている割合が83.8%→87.8%と、やや増えています。

図 2. 「朝ごはん」を、家で食べない日がある理由（複数回答）



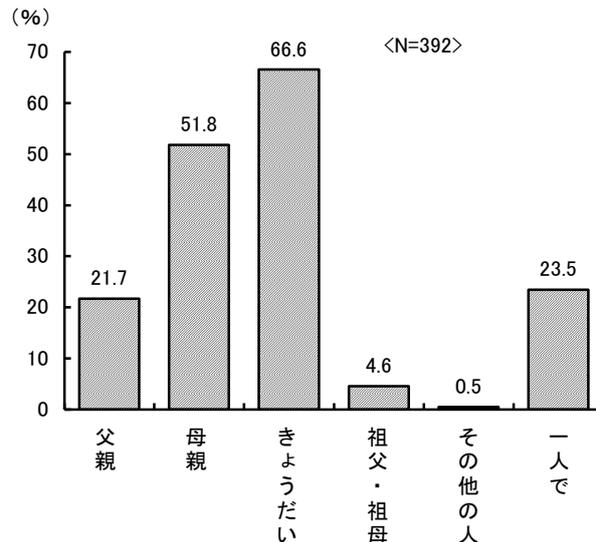
朝ごはんを家で“食べない日がある”人（49名）の理由をみると、「起きるのがおそいから」（79.6%）が第一。続く「食欲がないから」（32.7%）が主になっています。なお、サンプルは少数ですが《女子》で「太りたくないから」という人が1割強（12.5%）と目につきます。

2. 誰と一緒に「朝ごはん」を食べることが多いか

「きょうだい」(66.6%)、あるいは「母親」(51.8%)と一緒に食べる人が多いが、「一人で」食べることも2割強(23.5%)

●「朝ごはん」を一人で食べる理由は、「家を出るのが家族より早いから」(47.8%)、「いつもみんな好きな時に食べているから」(27.2%)、「家を出るのが家族より遅いから」(26.1%)など

図 3. 誰と一緒に「朝ごはん」を食べることが多いか（複数回答）



性別	男子 <n=194>	23.7	52.1	64.9	4.6	-	23.2
女子 <n=198>	19.7	51.5	68.2	4.5	1.0	23.7	
学校	小学生 <n=198>	22.7	60.1	72.2	4.0	0.5	14.6
	中学生 <n=194>	20.6	43.3	60.8	5.2	0.5	32.5
学年	小学4年生 <n=64>	20.3	59.4	71.9	7.8	1.6	18.8
	5年生 <n=67>	26.9	67.2	79.1	1.5	-	7.5
	6年生 <n=67>	20.9	53.7	65.7	3.0	-	17.9
	中学1年生 <n=63>	22.2	47.6	61.9	1.6	-	28.6
	2年生 <n=67>	20.9	40.3	53.7	7.5	-	38.8
	3年生 <n=64>	18.8	42.2	67.2	6.3	1.6	29.7

誰と一緒に「朝ごはん」を食べることが多いかをみると、「きょうだい」(66.6%)、もしくは「母親」(51.8%)が5割以上と多く、「父親」は2割強(21.7%)にとどまっています。

また、「一人で」(23.5%)食べることも少なくはないようです。

性別にみても、いずれも「きょうだい」、もしくは「母親」と一緒に食べる割合が5割以上と多くなっています。

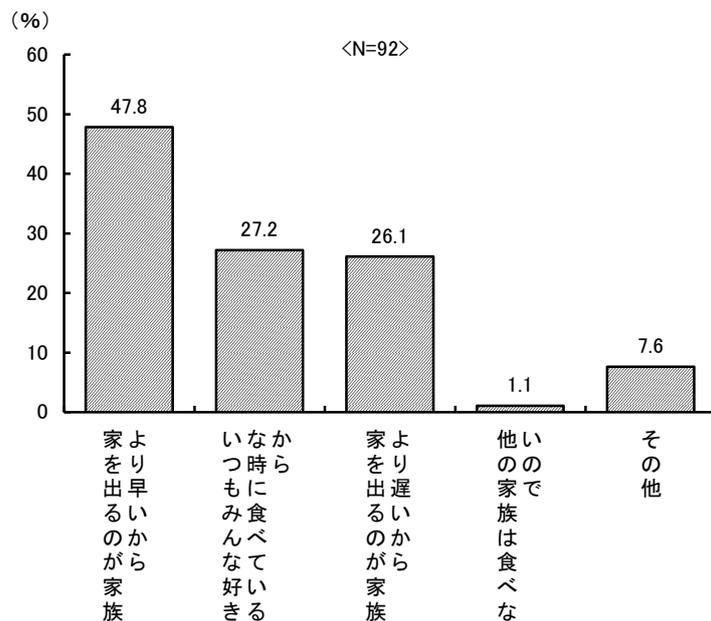
学校別にみても、いずれも「きょうだい」、もしくは「母親」が多くなっていますが、その割合は《小学生》の方が高くなっています。《中学生》では「一人で」が32.5%と、《小学生》(14.6%)の2倍以上の値を示しているのが目立ちます。

なお、「きょうだい」と一緒に食べる割合を、きょうだいが「いる人」に限ってみると、73.1%と、「母親」(49.9%)を大きく上回っています。

◆7年前の調査と比較すると、「きょうだい」(56.0%→66.6%)や「母親」(49.7%→51.8%)と一緒に食べる割

合は増えていますが、「父親」(25.6%→21.7%)や「一人で」(25.1%→23.5%)は減少しています。

図 4. 朝ごはんを一人で食べる理由 (複数回答)

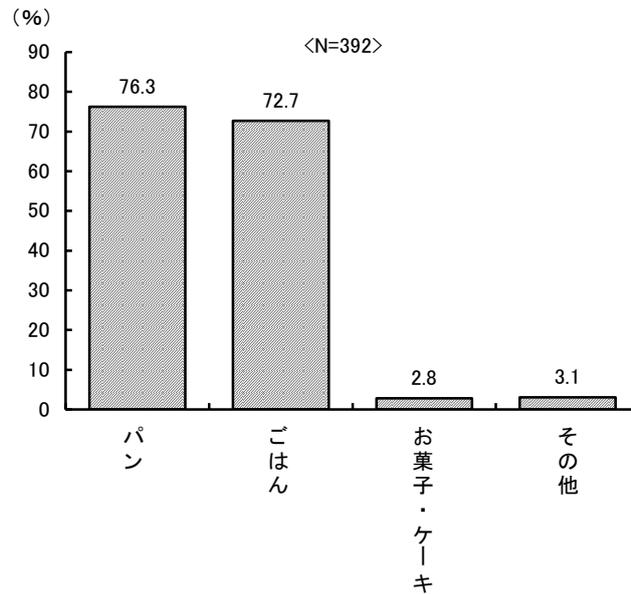


「朝ごはん」を一人で食べる人がいる人 (92 名) に、その理由を聞いてみたところ、「家を出るのが家族より早いから」(47.8%) が最も多く、以下「いつもみんな好きな時に食べているから」(27.2%)、「家を出るのが家族より遅いから」(26.1%) が続いています。

3. 「朝ごはん」にどのようなものを食べているか

「パン」(76.3%)が「ごはん」(72.7%)をやや上回る

図 5. 「朝ごはん」にどのようなものを食べているか（複数回答）



性別	男子 <n=194>	75.3	74.7	2.6	5.2
	女子 <n=198>	77.3	70.7	3.0	1.0
学校	小学生 <n=198>	78.3	75.8	2.0	3.5
	中学生 <n=194>	74.2	69.6	3.6	2.6

朝ごはん食べる主食をみると、「ごはん」が 72.7%、「パン」が 76.3%と、「パンを食べる」割合の方が若干高めになっています。

性別にみても、いずれも「パン」を食べる割合の方が「ごはん」を上回っていますが、《女子》では「ごはん」が 70.7%、「パン」が 77.3%と、その差が《男子》よりやや大きくなっています。

学校別にみても、「パン」が「ごはん」を上回っていますが、《中学生》では「ごはん」(69.6%)、「パン」(74.2%)と、その差が《小学生》より多めです。

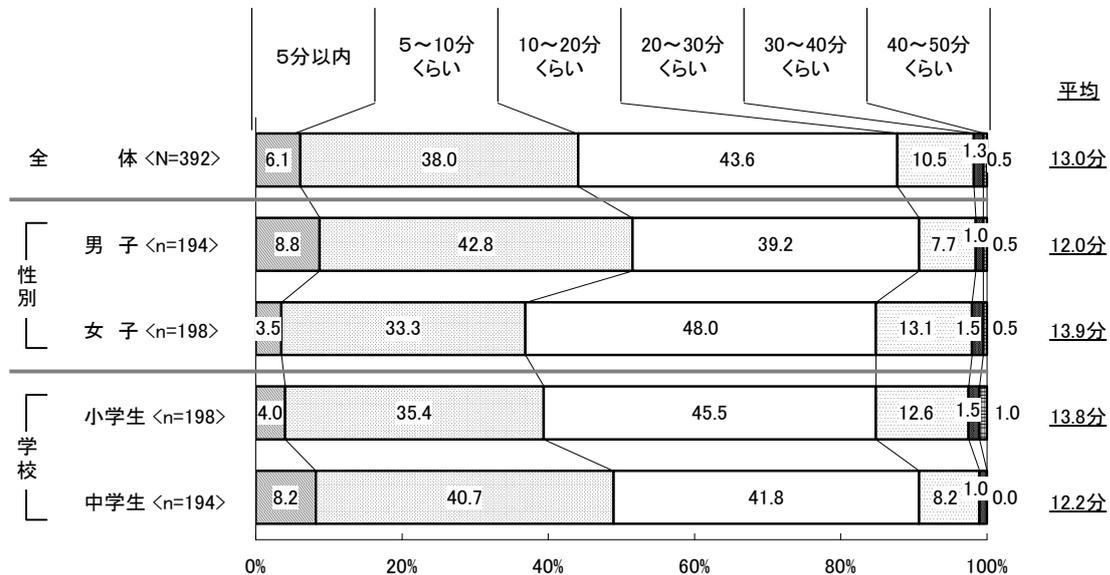
◆7年前の調査と比較すると、「パン」(76.6%→76.3%)は同程度ですが、「ごはん」を食べている割合が 63.1%→72.7%と 10ポイント近く増えています。

4. 「朝ごはん」を食べるのにどのくらいの時間をかけるか

「10～20分くらい」(43.6%)、あるいは「5～10分くらい」(38.0%)が多く、平均は「13.0分」

●平均は、《男子》が「12.0分」、《女子》は「13.9分」

図 6. 「朝ごはん」を食べるのにかける時間



朝ごはんはどのくらいの時間をかけて食べているのかをみると、「10～20分くらい」(43.6%)という人が最も多く、次いで「5～10分くらい」(38.0%)で、この「5～20分くらい」の時間という人が8割強(81.6%)を占めています。平均は、「13.0分」となっています。小・中学生でも朝ごはんは落ち着いて食べられないのが現実のようです。

性別にみると、いずれも「5～20分くらい」の時間が中心ですが、《男子》では「5～10分くらい」(42.8%)、《女子》では「10～20分くらい」(48.0%)が最も多くなっています。平均は、《男子》が「12.0分」、《女子》は「13.9分」です。

学校にみても、いずれも「5～20分くらい」の時間が中心ですが、平均は、《小学生》が「13.8分」、《中学生》が「12.2分」と、小学生の方が長めです。

◆7年前の調査と比較すると、7年前も「5～10分くらい」(39.9%)、「10～20分くらい」(40.2%)が中心で、平均は「12.2分」と、今回と同様の傾向です。

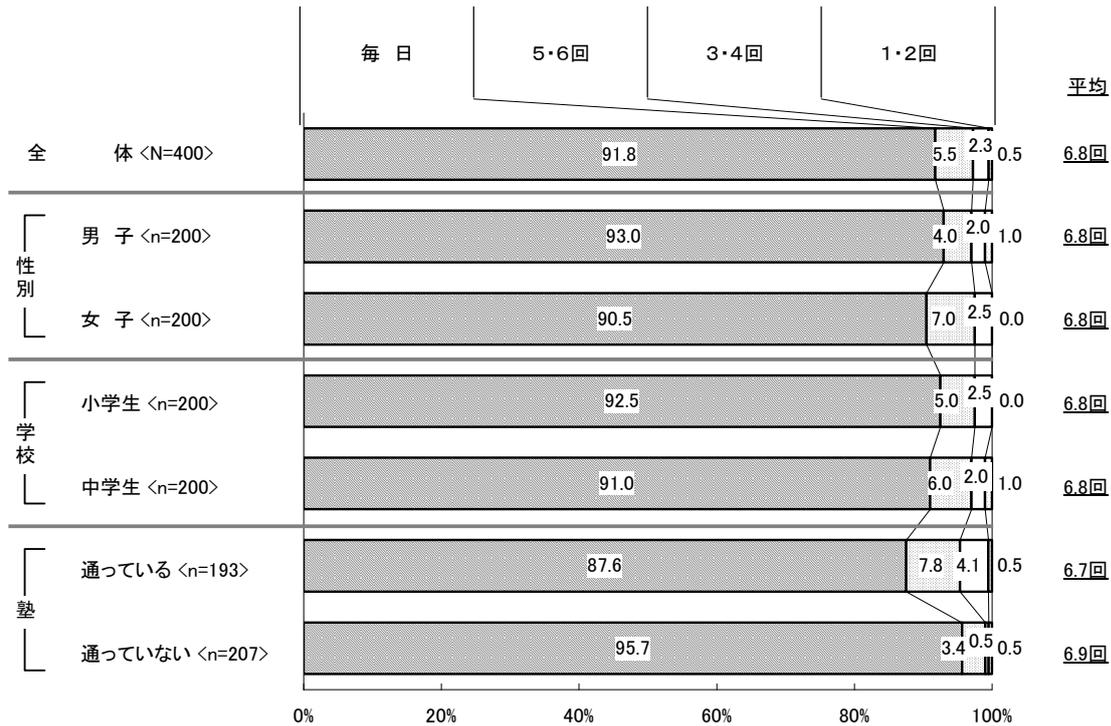
Ⅱ 「夕ごはん」の摂取実態

1. 家で「夕ごはん」を食べる回数

9割強(91.8%)は「毎日」食べているが、“食べない日がある”人が1割弱(8.3%)。平均は、週に「6.8回」

●夕ごはんを“食べない日がある”理由は、「塾や習い事があるから」(60.6%)、「外で食べるから」(57.6%)が主

図 7. 家で週に何回くらい「夕ごはん」を食べているか

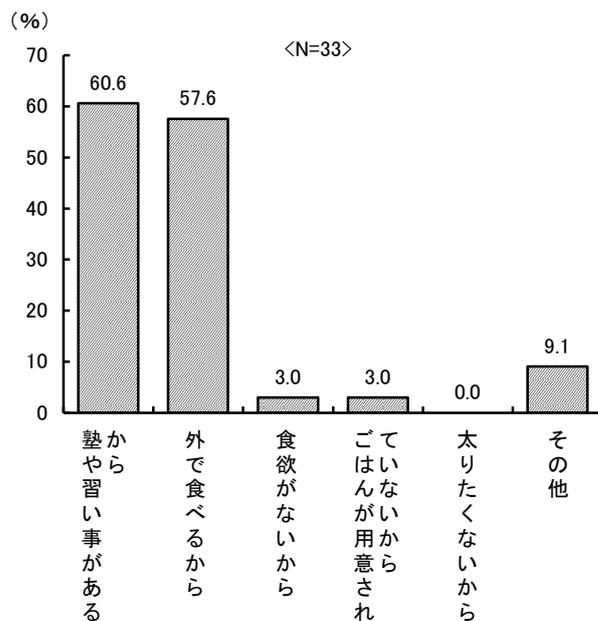


家で週に何回くらい「夕ごはん」を食べているかをみると、「毎日」という人が9割強(91.8%)を占めていますが、「5・6回」(5.5%)、「3・4回」(2.3%)など“食べない日がある”という人も1割弱(8.3%)みられます。平均は、週に「6.8回」です。

夕ごはんを「毎日」食べている割合は、性別では《女子》(90.5%)より《男子》(93.0%)、学校別では《中学生》(91.0%)より《小学生》(92.5%)の方が一層高率です。なお、《塾に通っている》人は「毎日」(87.6%)の割合が、《塾に通っていない》人の95.7%に比べて8ポイントほど低く、“食べない日がある”割合が1割強(12.4%)を示しています。

◆7年前の調査と比較すると、「毎日」食べている割合が84.8%→91.8%と、家で夕ごはんを食べるケースが増えてきています。

図 8. 「夕ごはん」を家で食べない日がある理由（複数回答）



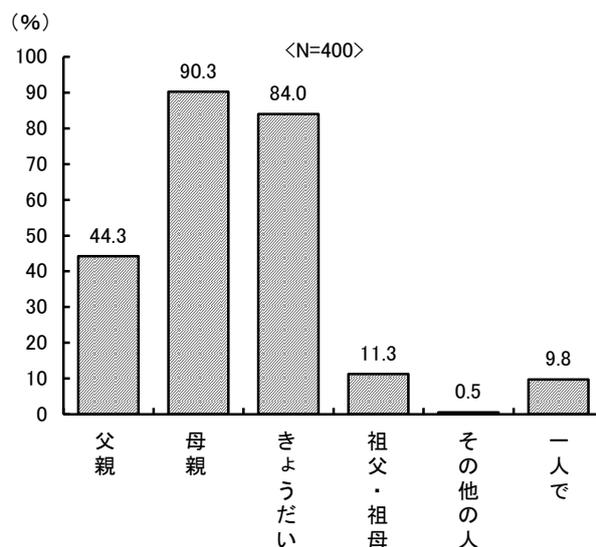
家で夕ごはんを“食べない日がある”人（33名）の理由は「塾や習い事があるから」（60.6%）、あるいは「外で食べるから」（57.6%）が主となっています。

2. 誰と一緒に「夕ごはん」を食べることが多いか

「母親」(90.3%)、あるいは「きょうだい」(84.0%)が主。「一人で」(9.8%)食べる時も

- 夕ごはんを一人で食べる理由は、「塾や習い事に行くから」(79.5%)が第一
- 夕ごはんを一人で食べても「何とも思わない」(53.8%)

図 9. 誰と一緒に「夕ごはん」を食べることが多いか（複数回答）



性別	男子 <n=200>	47.0	90.0	83.5	9.0	-	8.0
性別	女子 <n=200>	41.5	90.5	84.5	13.5	1.0	11.5
学校	小学生 <n=200>	45.5	93.0	88.0	10.5	-	5.0
	中学生 <n=200>	43.0	87.5	80.0	12.0	1.0	14.5

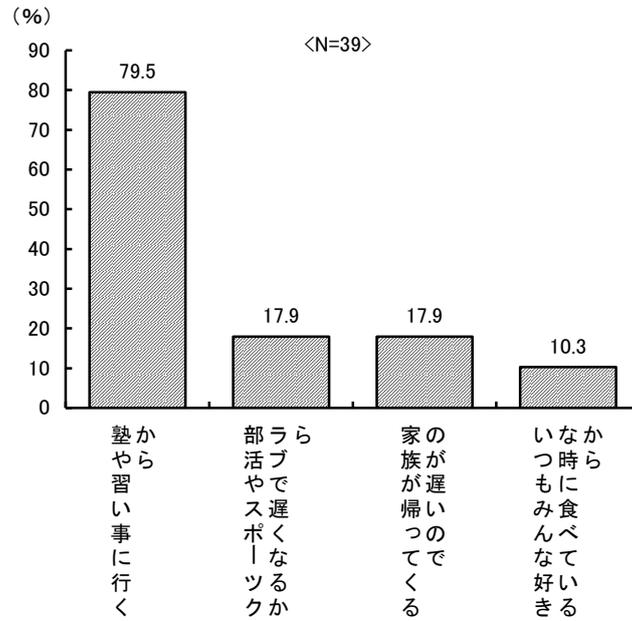
誰と一緒に夕ごはんを食べることが多いかをみると、「母親」(90.3%)、それに「きょうだい」(84.0%)が主となっています。そのほかでは「父親」(44.3%)、「祖父・祖母」(11.3%)、「一人で」食べるという人も1割(9.8%)います。朝ごはんに比べて「父親」の割合が21.7%→44.3%と、2倍以上の率を示しているのが目につきます。

性別や学校別にみても、いずれも「母親」と「きょうだい」が主となっています。

なお、「きょうだい」の割合をきょうだいが「いる人」に限ってみると92.6%で最も高率です。また、祖父母と「同居している人」では「祖父・祖母」の割合が6割(60.3%)で「父親」(39.7%)より高くなっています。

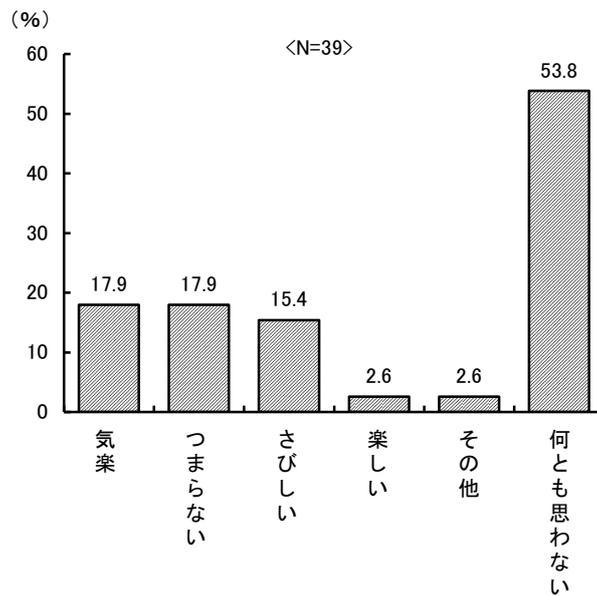
◆7年前の調査と比較すると、「母親」「きょうだい」が主であるのは変わりありませんが、「きょうだい」(75.3%→84.0%)は増加傾向だが、「母親」(94.3%→90.3%)、「父親」(51.8%→44.3%)は減少傾向です。また、「一人で」(19.8%→9.8%)も減少しています。

図 10. 「夕ごはん」を一人で食べる理由（複数回答）



夕ごはんを「一人で」食べる人（39名）の理由は、「塾や習い事に行くから」（31名、79.5%）で断然多く、そのほか「家族が帰ってくるのが遅いので」「部活やスポーツクラブで遅くなるから」（各7名、17.9%）、「いつもみんな好きな時に食べているから」（4名、10.3%）などとなっています。

図 11. 「夕ごはん」を一人で食べる時の気持ち（複数回答）



「夕ごはん」をひとりで食べる時、どういう気持ちか聞いてみたところ、「何とも思わない」（21名、53.8%）という人が半数強を占めています。

3. 家の「夕ごはん」で好きな料理、おかず

「ハンバーグ」(64件)、「カレー」(62件)、「から揚げ」(45件)がトップ3

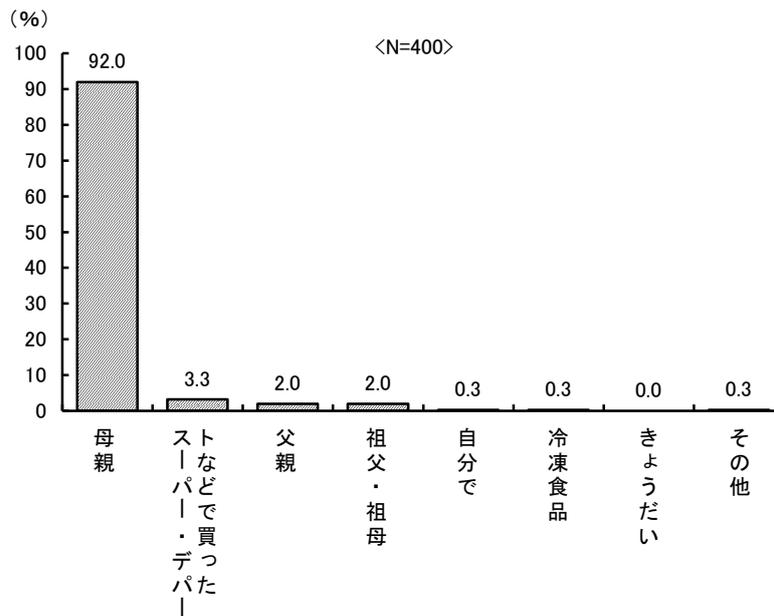
●その料理、おかずは「母親」(92.0%)が作ったものが断然

表 1. 家の夕ごはんでは好きな料理、おかず (自由回答：複数回答)

順位		件数	性別	
			男子	女子
1	ハンバーグ	64	28	36
2	カレー	62	42	20
3	から揚げ	45	26	19
4	ギョウザ	16	10	6
	焼肉	16	11	5
6	シチュー	13	4	9
7	オムライス	11	3	8
	グラタン	11	2	9
	肉じゃが	11	6	5
10	ラーメン	7	6	1
11	さしみ	5	3	2
	牛丼	5	4	1
	その他	134	55	79

家の夕ごはんでは好きな料理、おかずを一品、具体的にあげてもらったところ、「ハンバーグ」(64件)が最も多く、次いで「カレー」(62件)、「から揚げ」(45件)が続き、差があって「ギョウザ」「焼肉」(各16件)、「シチュー」(13件)があげられています。性別にみると、《男子》は「カレー」(42件)、《女子》は「ハンバーグ」(36件)がそれぞれトップです。

図 12. 好きな料理、おかずを作った人



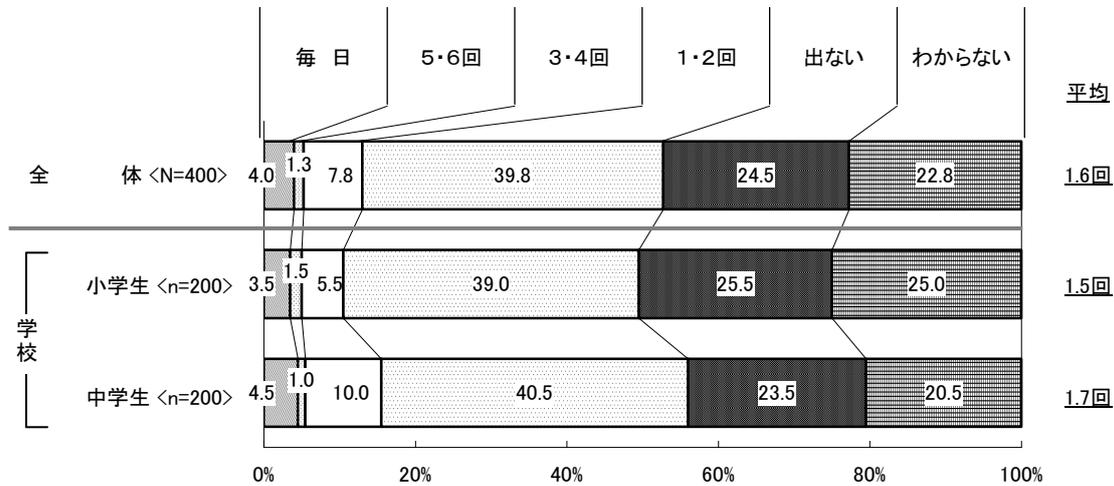
前述の好きな料理、おかずは誰が作ったものか聞いてみたところ「母親」(92.0%)が断然多くなっています。

◆ 7年前の調査と比較すると、7年前も「母親」(91.3%)が断然多くなっていました。

4. 家の「夕ごはん」に“手作り以外のもの”は、週に何回くらい出るか

週に「1・2回」(39.8%)、「3・4回」(7.8%)など、“出る”という人が半数強(52.8%)。平均は、週に「1.6回」

図 13. 家の「夕ごはん」に“手作り以外のもの”は、週に何回くらい出るか



家の「夕ごはん」に、「スーパーなどで買ったおかず」や「冷凍食品」など“手作り以外のもの”は、週に何回くらい出るか聞いてみたところ、「わからない」という人も2割強(22.8%)みられますが、週に「1・2回」(39.8%)、「3・4回」(7.8%)など、“出る”という人が半数強(52.8%)を占めています。「出ない」と“手作り度が高い”家庭は24.5%と、ほぼ4分の1の割合です。平均は、週に「1.6回」です。

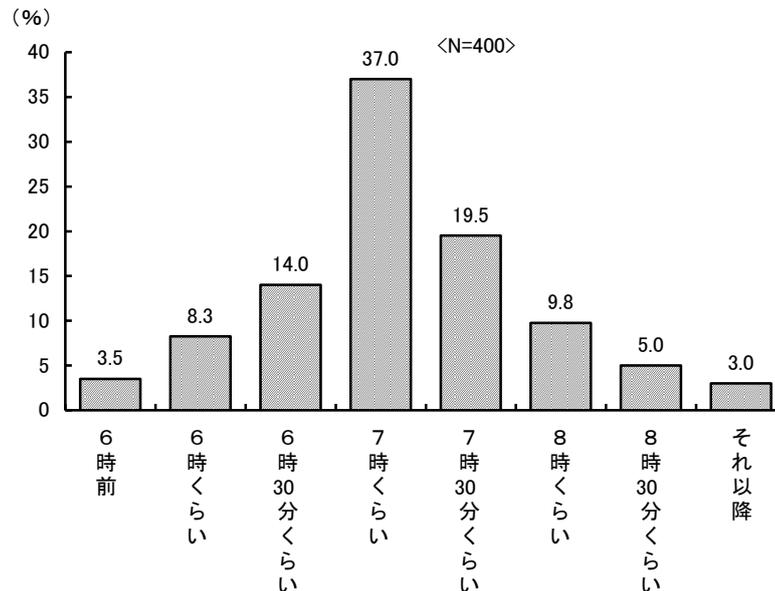
“出る”割合は、《小学生》がいる家庭(49.5%)より《中学生》がいる家庭(56.0%)の方が高くなっています。

◆7年前の調査と比較すると、“出る”割合が50.0%→52.8%と、ほぼ横ばい傾向で、平均も、週に「1.6回→1.6回」と変わりません。

5. ふだん何時くらいに「夕ごはん」を食べはじめるか

「7時くらい」(37.0%)、「7時30分くらい」(19.5%)など、半数以上が“7時台”(56.5%)

図 14. ふだん何時くらいに「夕ごはん」を食べはじめるか（週のうち多い日）



性別	男子 <n=200>	4.0	10.5	17.5	33.0	20.0	9.0	4.0	2.0
女子 <n=200>	3.0	6.0	10.5	41.0	19.0	10.5	6.0	4.0	
学校	小学生 <n=200>	4.0	7.0	17.0	39.5	19.5	5.5	5.5	2.0
	中学生 <n=200>	3.0	9.5	11.0	34.5	19.5	14.0	4.5	4.0
塾	通っている <n=193>	3.1	5.2	13.5	39.9	17.1	11.9	5.7	3.6
	通っていない <n=207>	3.9	11.1	14.5	34.3	21.7	7.7	4.3	2.4

ふだん何時くらいに夕ごはんを食べはじめるか、週のうち多い日を見ると、「7時くらい」(37.0%)が最も多く、次いで「7時30分くらい」(19.5%)が多く、“7時台”に食べはじめている人は半数以上(56.5%)を占めています。そのほかでは“6時台”が2割強(22.3%)、“8時台”が14.8%となっています。

性別にみても、いずれも“7時台”が最も多くなっていますが、その割合は《男子》(53.0%)より《女子》(60.0%)の方が高くなっています。《男子》では、それより早い“6時台”が3割弱(28.0%)と、《女子》(16.5%)に比べて10ポイント以上高くなっているのが目につきます。

学校にみても、いずれも“7時台”が最も多くなっていますが、その割合は《中学生》(54.0%)より《小学生》(59.0%)の方が高めです。

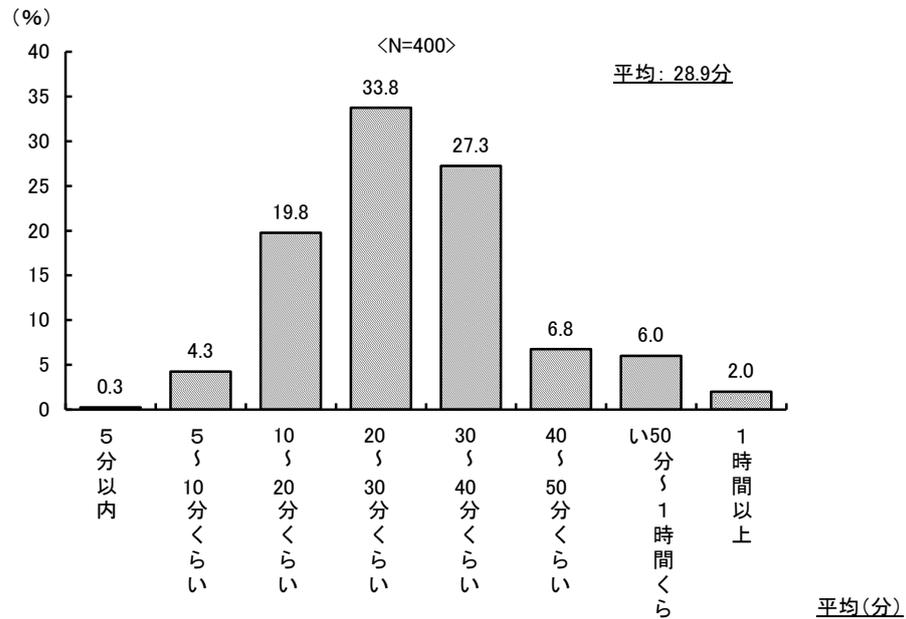
なお、塾に《通っている》人では“8時台、あるいはそれ以降の時間”に食べはじめる割合は2割強(21.2%)と、《通っていない》人(14.5%)より高めです。

◆7年前の調査と比較すると、7年前も「7時くらい」(30.0%)、「7時30分くらい」(25.3%)など、“7時台”(55.3%)が中心で変わりありません。(今回56.5%)

6. 「夕ごはん」を食べるのにどのくらいの時間をかけるか

「20～30 分くらい」(33.8%)が最も多く、次いで「30～40 分くらい」(27.3%)で、“20～40 分くらい”という人が6割強(61.0%)。平均は「28.9 分」

図 15. 「夕ごはん」を食べるのにかける時間



性別	時間									平均(分)
	5分以内	5分～10分くらい	10分～20分くらい	20分～30分くらい	30分～40分くらい	40分～50分くらい	50分～1時間くらい	1時間以上		
男子 <n=200>	-	4.5	22.0	35.0	27.5	6.0	5.0	-	27.5	
女子 <n=200>	0.5	4.0	17.5	32.5	27.0	7.5	7.0	4.0	30.4	
小学生 <n=200>	-	4.0	18.0	32.0	30.5	8.0	5.0	2.5	29.7	
中学生 <n=200>	0.5	4.5	21.5	35.5	24.0	5.5	7.0	1.5	28.2	

夕ごはんを食べるのにどのくらいの時間をかけるか聞いてみたところ、「20～30分くらい」(33.8%)が最も多く、以下「30～40分くらい」(27.3%)、「10～20分くらい」(19.8%)、「40～50分くらい」(6.8%)の順となっています。平均は「28.9分」、前述した朝ごはん(平均13.0分)の2倍以上の時間をかけています。

性別や学年別にみても、いずれも「20～30分くらい」、あるいは「30～40分くらい」が多くなっています。

平均は、《男子》(27.5分)より《女子》(30.4分)、《中学生》(28.2分)より《小学生》(29.7分)の方が長めです。

◆7年前の調査と比較すると、7年前も「20～30分くらい」(35.3%→33.8%)、「30～40分くらい」(39.3%→27.3%)が中心で、平均も「29.6分→28.9分」と変わりありません。

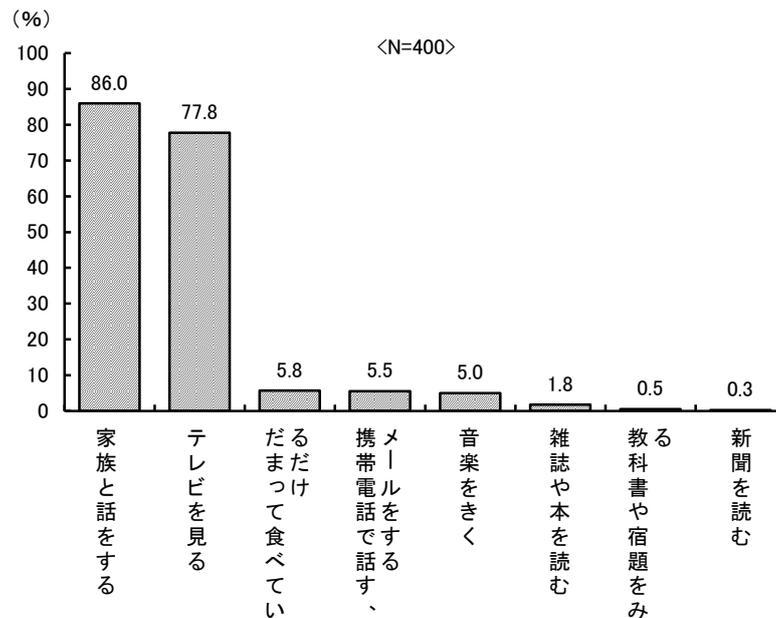
Ⅲ 食事や料理に対する意識と実態

1. 家で食事の時どんなことをしているか

「家族と話をする」(86.0%)、あるいは「テレビを見る」(77.8%)が主

●少数だが「携帯電話で話す、メールをする」(5.5%)も

図 16. 家で食事の時どんなことをしているか（複数回答）



性別	男子 <n=200>	82.5	80.5	6.5	5.5	3.0	1.5	0.5	0.5
	女子 <n=200>	89.5	75.0	5.0	5.5	7.0	2.0	0.5	-
学校	小学生 <n=200>	91.0	75.0	1.5	1.0	3.5	-	-	0.5
	中学生 <n=200>	81.0	80.5	10.0	10.0	6.5	3.5	1.0	-

家で食事の時、どんなことをしているか聞いてみたところ、「家族と話をする」(86.0%)、そして「テレビを見る」(77.8%)が断然多くなっています。家族団らんは“テレビをみながら”というのが主流のようです。そのほか、少数派ですが「だまって食べているだけ」(5.8%)、「携帯電話で話す、メールをする」(5.5%)、「音楽をきく」(5.0%)といった人もみられます。

性別や学校別にみても、いずれも「家族と話をする」、あるいは「テレビを見る」が断然多くなっています。

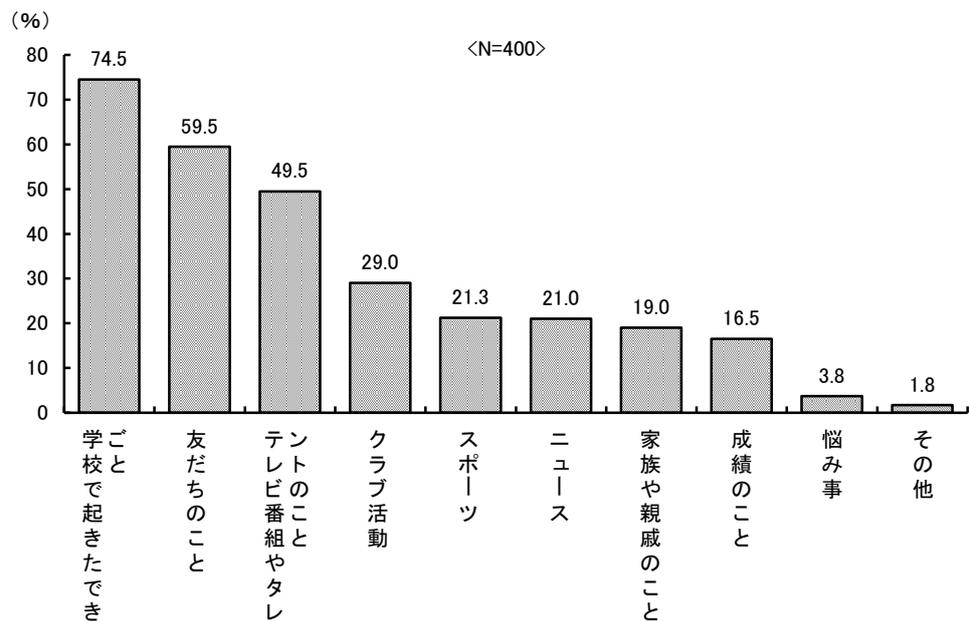
また、「だまって食べているだけ」や「携帯電話で話す、メールをする」は《中学生》では、いずれも1割(10.0%)と《小学生》に比べ高くなっています。

◆7年前の調査と比較すると、「家族と話をする」(80.3%→86.0%)、「テレビを見る」(62.5%→77.8%)がより一層高率になっています。なお、まだ少数派ですが「携帯電話で話す、メールをする」が1.8%→5.5%に増えています。

2. 家で食事の時、家族と話しているのはどんなことか

「学校で起きたできごと」(74.5%)、「友だちのこと」(59.5%)、「テレビ番組やタレントのこと」(49.5%)がトップ3

図 17. 家で食事の時、家族と話している内容（複数回答）



性別	男子 <n=200>	66.0	55.0	48.5	30.5	28.5	26.5	20.0	16.5	2.0	2.0
	女子 <n=200>	83.0	64.0	50.5	27.5	14.0	15.5	18.0	16.5	5.5	1.5
学校	小学生 <n=200>	83.5	65.0	41.0	21.0	25.0	15.0	16.5	10.5	4.5	2.0
	中学生 <n=200>	65.5	54.0	58.0	37.0	17.5	27.0	21.5	22.5	3.0	1.5

前述のように食事の時は“家族と話をする”という人が断然多くなっていましたが、ここでは、その話の内容を聞いてみました。

その結果、「学校で起きたできごと」(74.5%)が最も多く、以下「友だちのこと」(59.5%)、「テレビ番組やタレントのこと」(49.5%)、やや差があって「クラブ活動」(29.0%)、「スポーツ」(21.3%)、「ニュース」(21.0%)が続いています。

性別にみても、いずれもトップ3は全体と同じ内容があげられていますが、その割合は《女子》の方が一層高率です。

一方、「クラブ活動」、「スポーツ」、「ニュース」は《男子》の方が高くなっています。

学校別にみても、いずれもトップ3は全体と同じ内容があげられています。

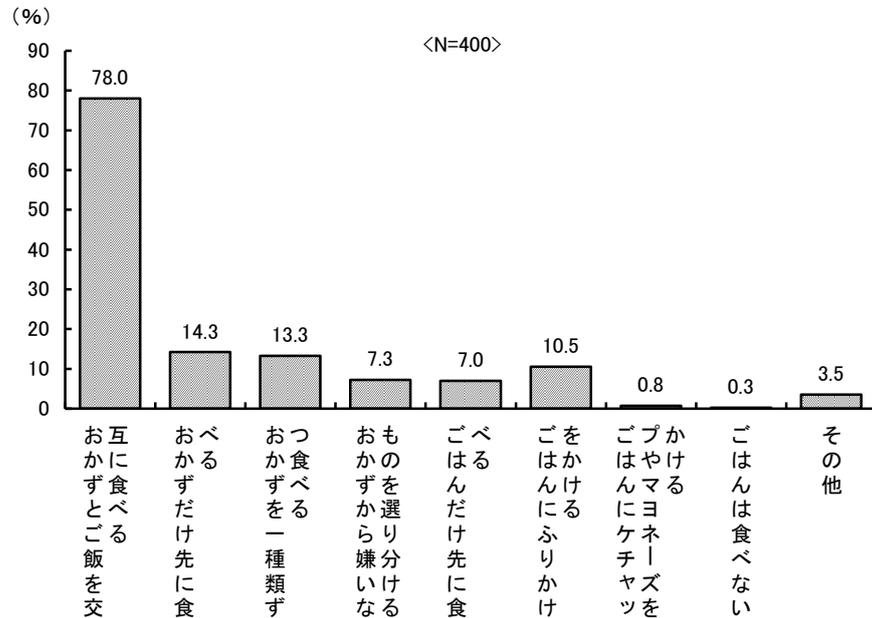
《小学生》の方が《中学生》より高いのは「学校で起きたできごと」、「友だちのこと」、「スポーツ」、反対に《中学生》の方が高くなっているのは「テレビ番組やタレントのこと」、「クラブ活動」、「ニュース」などです。

◆7年前の調査と比較すると、いずれも「学校で起きたできごと」(74.5%→74.5%)が最も多くなっています。「友だちのこと」が40.3%→59.5%と大きくアップし、今回は2位にランクされています。

3. ふだん、「食事」をどのように食べているか

マナー通り「おかずとご飯を交互に食べる」(78.0%)ことが断然多いが、「おかずだけ先に食べる」(14.3%)、「おかずを一種類ずつ食べる」(13.3%)、「おかずから嫌いなものを選び分ける」(7.3%)などのケースも

図 18. ふだん、「食事」をどのように食べているか（複数回答）



性別	男子 <n=200>	78.0	15.5	13.5	7.0	7.5	10.5	1.5	-	3.0
	女子 <n=200>	78.0	13.0	13.0	7.5	6.5	10.5	-	0.5	4.0
学校	小学生 <n=200>	71.5	20.5	14.0	9.0	9.5	12.5	0.5	-	3.5
	中学生 <n=200>	84.5	8.0	12.5	5.5	4.5	8.5	1.0	0.5	3.5

ふだん、「食事」をどのように食べているか聞いてみたところ、「おかずとご飯を交互に食べる」(78.0%)と、マナー通り食べているケースが断然多くなっていますが、「おかずだけ先に食べる」(14.3%)、「おかずを一種類ずつ食べる」(13.3%)、「おかずから嫌いなものを選び分ける」(7.3%)、「ごはんだけ先に食べる」(7.0%)といった例外ケースも少なからずみられます。また、「ごはんにふりかけをかける」(10.5%)、「ごはんにケチャップやマヨネーズをかける」(0.8%)という人もいます。

性別にみると、いずれも「おかずとご飯を交互に食べる」という割合が共に8割弱(78.0%)をはじめ、例外ケースの割合もあまり変わりありません。

学校別にみても、いずれも「おかずとご飯を交互に食べる」が断然多くなっていますが、その割合は《小学生》(71.5%)より《中学生》(84.5%)の方が13ポイント高くなっています。一方、「おかずだけ先に食べる」、「おかずを一種類ずつ食べる」など、例外的なケースは《小学生》の方が高めです。特に、「おかずだけ先に食べる」割合は《中学生》では8.0%と1割未満ですが、《小学生》では2割(20.5%)に達しています。

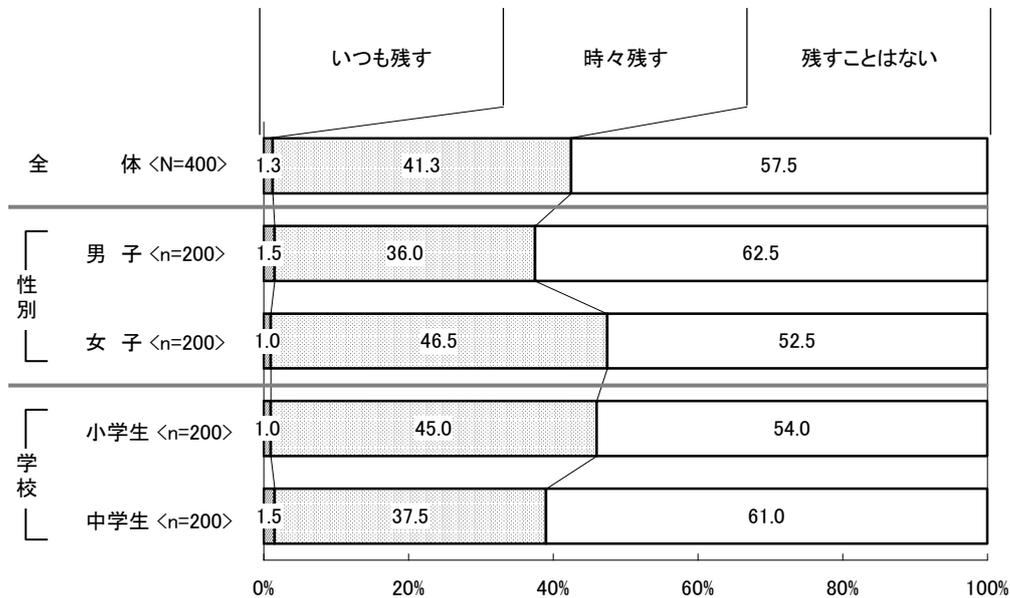
◆ 7年前の調査と比較すると、「おかずとご飯を交互に食べる」と、マナー通り食べている割合が66.3%→78.0%と10ポイント以上増えています。

4. 食事を残すことがあるか

「いつも残す」(1.3%)、「時々残す」(41.3%)など4割強(42.5%)が“残すことがある”

●“残すことがある”割合は、《男子》(37.5%)より《女子》(47.5%)の方が高い

図 19. 食事を残すこと



食事を「いつも残す」(1.3%)という人はまれですが、「時々残す」(41.3%)という人が相当数みられ、合わせて4割強(42.5%)が“残すことがある”と答えています。

性別にみると、“残すことがある”割合は、《男子》(37.5%)より《女子》(47.5%)の方が10ポイント高くなっています。

学校別では、《中学生》(39.0%)より《小学生》(46.0%)の方が高くなっています。

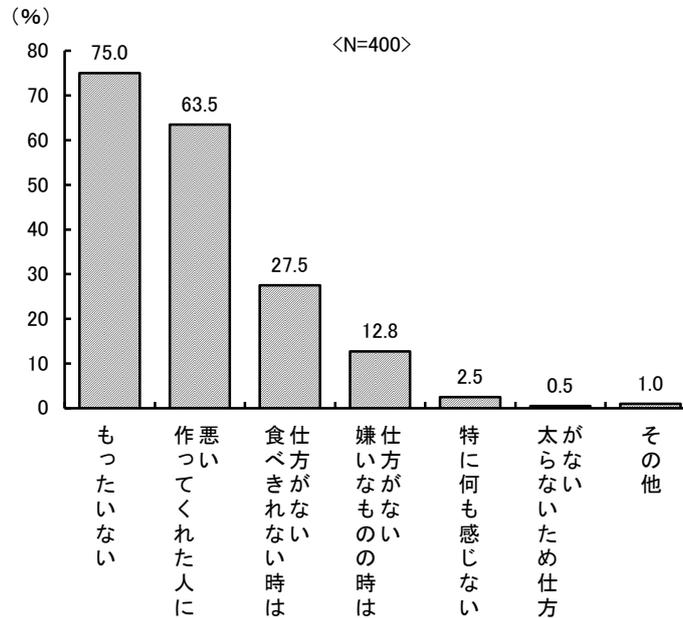
なお、《小学生の女子》では半数以上(53.0%)が“残すことがある”と答えているのが目につきます。

◆7年前の調査と比較すると、“残すことがある”割合が48.3%→42.5%と減少しています。“ものを大事にする”という意識がいくらか強くなっているようです。

5. 食事を残すことについてどう思うか

「もったいない」(75.0%)、「作ってくれた人に悪い」(63.5%)など“罪悪感”を持っている人が多い反面、「食べきれない時は仕方がない」(27.5%)、「嫌いなもの時は仕方がない」(12.8%)など“仕方がない”という見解も多い

図 20. 食事を残すことについてどう思うか（複数回答）



性別	男子 <n=200>	78.5	62.5	26.0	14.0	2.0	-	0.5
	女子 <n=200>	71.5	64.5	29.0	11.5	3.0	1.0	1.5
学校	小学生 <n=200>	72.0	67.5	26.0	10.5	4.0	-	1.5
	中学生 <n=200>	78.0	59.5	29.0	15.0	1.0	1.0	0.5
残すこと	ある <n=170>	58.2	53.5	41.8	21.8	2.9	1.2	1.8
	<いつも> <n=5>	40.0	20.0	20.0	40.0	-	20.0	-
	<時々> <n=165>	58.8	54.5	42.4	21.2	3.0	0.6	1.8
	ない <n=230>	87.4	70.9	17.0	6.1	2.2	-	0.4

では、食事を残すことについてどう思うっているのでしょうか。

「もったいない」(75.0%)、あるいは「作ってくれた人に悪い」(63.5%)と、残すことに“罪悪感”を抱いている人が多くなっていますが、反面「食べきれない時は仕方がない」(27.5%)、「嫌いなもの時は仕方がない」(12.8%)など、“仕方がない”という人も少なからずみられます。中には「特に何も感じない」(2.5%)という人も少数います。

性別や学校別にみても、いずれも「もったいない」、あるいは「作ってくれた人に悪い」と思っている人が多くなっています。

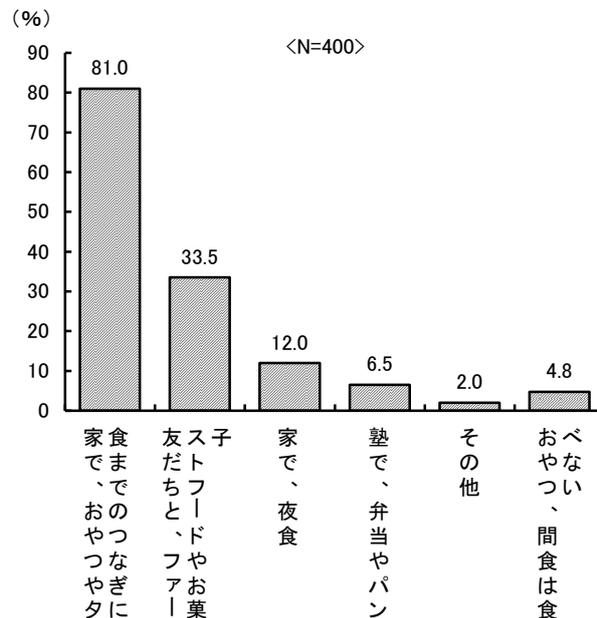
また、前項で食事を“残すことはない”人では「もったいない」(87.4%)、あるいは「作ってくれた人に悪い」(70.9%)という割合が“残すことがある”人（順に 58.2%、53.5%）に比べて一層高率です。

◆7年前の調査と比較すると、「もったいない」(37.8%→75.0%)、「作ってくれた人に悪い」(44.3%→63.5%)という罪悪感意識が大幅にアップしています。一方、「食べきれない時は仕方がない」(34.3%→27.5%)、「嫌いなもの時は仕方がない」(20.3%→12.8%)など“仕方がない”という割合はダウンしています。

6. 毎日の食事のほかに、おやつなど「間食」をいつ食べているか

間食を“食べる”(95.3%)人が大半で、時間帯としては「家で、おやつや夕食までのつなぎに」(81.0%)が断然多い

図 21. 毎日の食事のほかに、おやつなど「間食」を、どんな時に食べているか（複数回答）



性別	男子 <n=200>	79.0	34.5	16.5	6.5	2.0	5.0
	女子 <n=200>	83.0	32.5	7.5	6.5	2.0	4.5
学校	小学生 <n=200>	83.5	29.0	6.5	4.0	1.0	5.0
	中学生 <n=200>	78.5	38.0	17.5	9.0	3.0	4.5

毎日の食事のほかに、おやつなど「間食」をいつ食べているかをみると、「おやつ、間食は食べない」(4.8%)という人はごくわずかで、大半の人は“食べる”(95.3%)と答えています。その時間帯としては、「家で、おやつや夕食までのつなぎに」(81.0%)が断然多くなっています。以下「友達と、ファーストフードやお菓子」(33.5%)、「家で、夜食」(12.0%)、「塾で、弁当やパン」(6.5%)の順となっています。

なお、「塾で、弁当やパン」を《塾に通っている》人に限ってみた割合は13.5%です。

性別や学校別にみても、いずれも大半が間食を“食べる”と答えています。食べる時間帯で「家で、おやつや夕食までのつなぎに」の割合は、《男子》(79.0%)より《女子》(83.0%)、《中学生》(78.5%)より《小学生》(83.5%)の方が高めです。

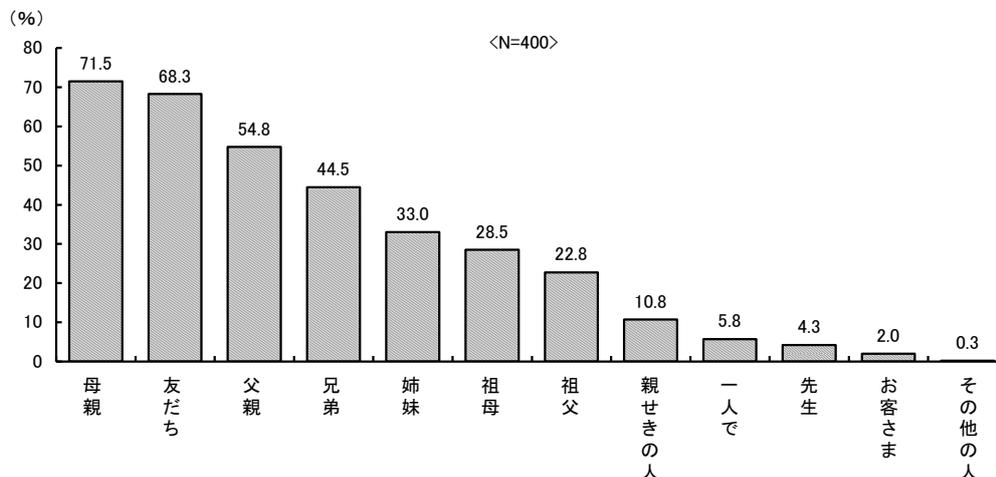
また、「友達と、ファーストフードやお菓子」は《小学生》(29.0%)より《中学生》(38.0%)の方が高くなっているのが目につきます。

◆7年前の調査と比較すると、7年前も、大半の人は“食べる”(97.2%→95.3%)と答えており、その時間帯も「家で、おやつや夕食までのつなぎに」(74.3%→81.0%)が断然多くなっています。

7. 食事を誰と一緒に食べるときが楽しいか

「母親」(71.5%)がトップ。差なく「友だち」(68.3%)、「兄弟」「姉妹」を合わせた“兄弟・姉妹”(67.3%)、そして「父親」(54.8%)が続く

図 22. 食事を誰と一緒に食べるときが楽しいか (複数回答)



性別	男子 <n=200>	66.0	66.5	54.0	50.5	21.5	26.0	21.5	9.0	8.0	3.0	1.5	0.5
女子 <n=200>	77.0	70.0	55.5	38.5	44.5	31.0	24.0	12.5	3.5	5.5	2.5	-	-
学校	小学生 <n=200>	80.5	66.5	64.5	46.0	36.0	34.0	29.5	11.5	2.0	6.5	4.0	0.5
	中学生 <n=200>	62.5	70.0	45.0	43.0	30.0	23.0	16.0	10.0	9.5	2.0	-	-

食事を誰と一緒に食べるときが楽しいか聞いてみたところ、「母親」(71.5%)が最も多く、差なく「友だち」(68.3%)と「兄弟」(44.5%)、「姉妹」(33.0%)など“兄弟・姉妹”(67.3%)が続いています。以下「父親」(54.8%)、「祖母」(28.5%)、「祖父」(22.8%)など“祖父・祖母”(29.5%)、「親せきの人」(10.8%)などとなっています。

性別にみると、いずれも「母親」が最も多くなっていますが、全般的に《男子》より《女子》の方が高率を示している項目が多く、一緒に食べると楽しい相手が女子の方が多岐にわたっていることがうかがえます。

学校別にみると、《小学生》では「母親」(80.5%)、《中学生》では「友だち」(70.0%)がトップです。また、《中学生》より《小学生》の方が高率を示している項目が目立ちます。

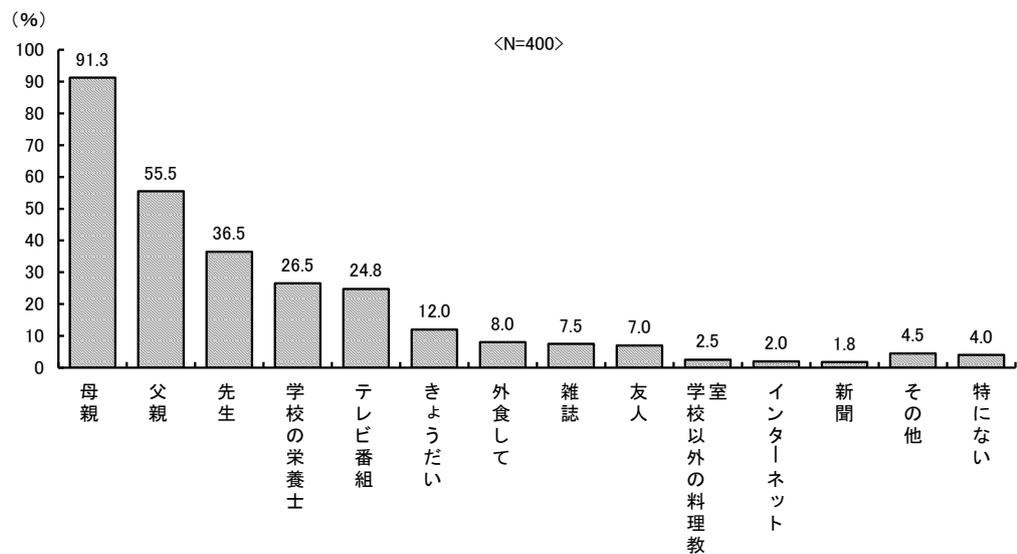
◆ 7年前の調査と比較すると、「友だち」が 33.8%→68.3%と大幅に増えています。「母親」(83.3%→71.5%)、「父親」(76.8%→54.8%)は減少傾向にあります。

1. これまで、料理や食べ物、食べ方について、どのような人や方法から学んできたか

「母親」(91.3%)がトップ、第2位に「父親」(55.5%)と、“両親”の教え第一。以下「先生」(36.5%)、「学校の栄養士」(26.5%)、「テレビ番組」(24.8%)の順

●「父親」からは《女子》(49.5%)より《男子》(61.5%)

図 23. 料理や食べ物、食べ方について、どのような人や方法から学んできたか（複数回答）



性別	男子 <n=200>	女子 <n=200>	母親	父親	先生	学校の栄養士	テレビ番組	きょうだい	外食して	雑誌	友人	学室以外の料理教	インターネット	新聞	その他	特にない
男子 <n=200>	90.0	61.5	35.0	27.0	20.0	12.0	8.0	2.5	4.5	2.0	1.0	1.0	3.5	4.5		
女子 <n=200>	92.5	49.5	38.0	26.0	29.5	12.0	8.0	12.5	9.5	3.0	3.0	2.5	5.5	3.5		

これまで、料理や食べ物、食べ方について、どのような人やどんな方法から学んできたかをみると、「母親」(91.3%)からが断然多く、次いで「父親」(55.5%)が続き、“両親”から学んできた人が圧倒的である。以下「先生」(36.5%)、「学校の栄養士」(26.5%)、「テレビ番組」(24.8%)、「きょうだい」(12.0%)が続いています。

性別にみても、いずれも「母親」が断然トップをはじめ、上位にあげられている項目は全体と変わりません。なお、「父親」からの割合が、《女子》(49.5%)より《男子》(61.5%)の方が高くなっているのが目立ちます。

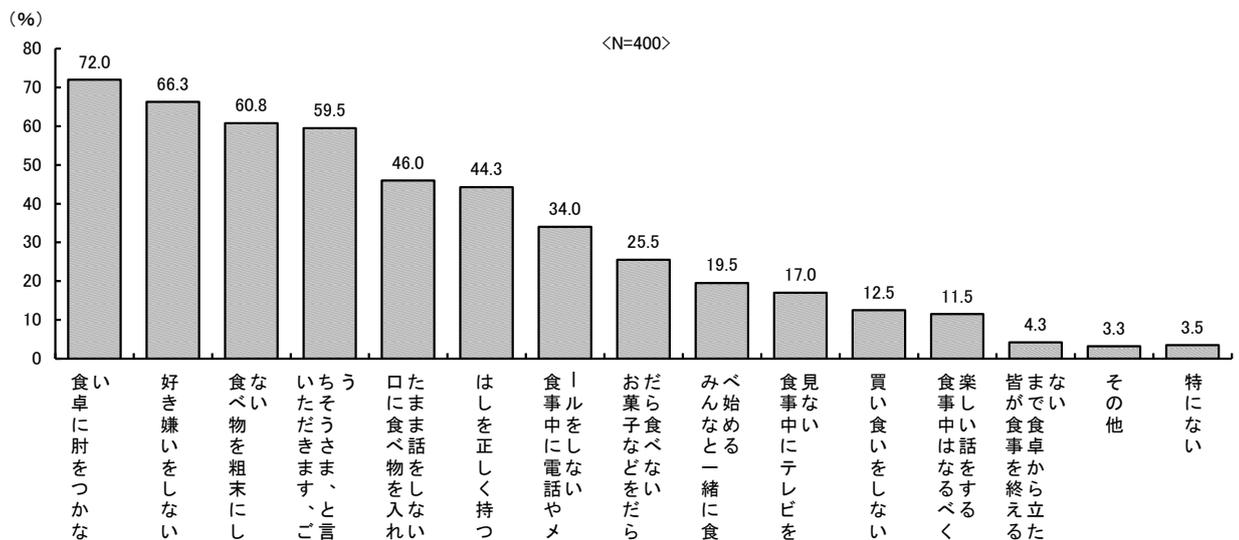
◆7年前の調査と比較すると、いずれも「母親」(90.0%→91.3%)が断然多く、次いで「父親」(51.5%→55.5%)となっています。

2. 家で食べ物や食事について、守るように言われていること

「食卓に肘をつかない」(72.0%)、「好き嫌いをしない」(66.3%)、「食べ物を粗末にしない」(60.8%)、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(59.5%)、「口に食べ物を入れたまま話をしない」(46.0%)、「はしを正しく持つ」(44.3%)、「食事中に電話やメールをしない」(34.0%)など、「しつけられた」ことは多岐にわたる

●「食事中に電話やメールをしない」は《男子》(23.5%)より《女子》(44.5%)の方が多

図 24. 家で食べ物や食事について、守るように言われていること（複数回答）



性別	男子 <n=200>	女子 <n=200>	小学生 <n=200>	中学生 <n=200>
食卓に肘をつかない	69.5	74.5	72.5	71.5
好き嫌いをしない	67.5	65.0	69.0	63.5
食べ物を粗末にしない	59.0	62.5	59.5	62.0
いただきます、ごちそうさま、と言う	59.0	60.0	67.0	52.0
口に食べ物を入れたまま話をしない	44.0	48.0	51.0	41.0
はしを正しく持つ	43.0	45.5	48.5	40.0
食事中に電話やメールをしない	23.5	44.5	20.5	47.5
お菓子などをだらだら食べない	23.5	27.5	31.0	20.0
みんなと一緒に食べ始める	23.0	16.0	24.5	14.5
食事中にテレビを見ない	16.5	17.5	22.0	12.0
買い食いをしない	11.5	13.5	14.0	11.0
楽しい話をする	10.5	12.5	16.0	7.0
皆が食事から立ち上がるまで食卓を片づける	5.5	3.0	5.5	3.0
その他	4.0	2.5	4.0	2.5
特になし	3.0	4.0	3.0	4.0

食べ物や食事について、家で“しつけ面”から守るように言われていることは、「食卓に肘をつかない」(72.0%)が最も多く、次いで「好き嫌いをしない」(66.3%)、「食べ物を粗末にしない」(60.8%)、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(59.5%)が続く、この4つについては半数以上の割合となっています。以下「口に食べ物を入れたまま話をしない」(46.0%)、「はしを正しく持つ」(44.3%)、「食事中に電話やメールをしない」(34.0%)、「お菓子などをだらだら食べない」(25.5%)の順となっています。「特になし」(3.5%)という人はごく少数で、大半の人(96.5%)が、いろいろなことを守るように言われています。

性別にみても、いずれも「食卓に肘をつかない」が7割前後で最も多くなっているのをはじめ、上位にあげられている項目は全体とあまり変わりません。

なお、「食事中に電話やメールをしない」を言われている割合は、《男子》(23.5%)より《女子》(44.5%)の方が21ポイント高くなっているのが目につきます。

学校別にみても、いずれも「食卓に肘をつかない」が7割強で最も多くなっているのをはじめ、上位にあげられている項目は全体とあまり変わりません。

学校別にみると、「食事中に電話やメールをしない」を言われている割合が、《小学生》(20.5%)より《中学生》(47.5%)の方が2倍以上の値を示しています。

特に、《中学生の女子》では6割弱(59.0%)と高率なのが目につきます。

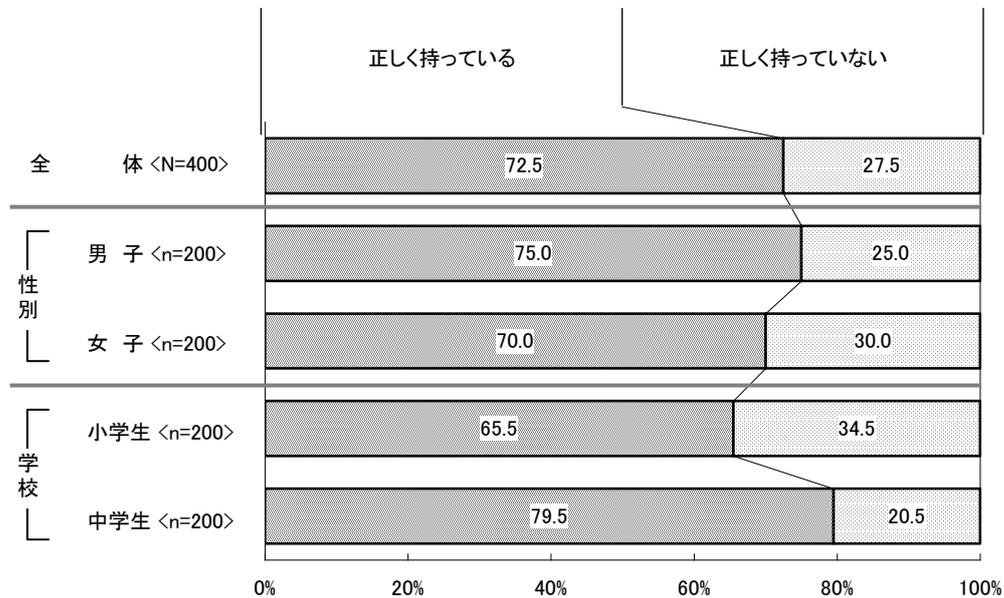
◆ 7年前の調査と比較すると、「食卓に肘をつかない」が 43.0%→72.0%と大幅に増え、7年前の3位からトップになっています。また、「好き嫌いをしない」(51.3%→66.3%)、「食べ物を粗末にしない」(58.3%→60.8%)、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(40.5%→59.5%)など、今回上位の項目はいずれも比率がアップしています。

3. 『おはし』を正しく持っているか

自己判断の結果、7割強(72.5%)が「正しく持っている」

●「正しく持っている」割合は、《男子》(75.0%)の方が《女子》(70.0%)より高め

図 25. 『おはし』を正しく持っているか【イラスト参照】



『おはし』を正しく持っているか、【イラスト参照】を参照して自己判断してもらいました。

その結果、「正しく持っている」という人は7割強(72.5%)を占めています。

性別にみると、「正しく持っている」という割合は、《男子》(75.0%)の方が《女子》(70.0%)より高めです。

学校別では、《小学生》(65.5%)より《中学生》(79.5%)の方が14ポイント高くなっています。

なお、《小学4年生》では「正しく持っている」割合が5割(50.8%)とかなり低くなっているのが目立ちます。

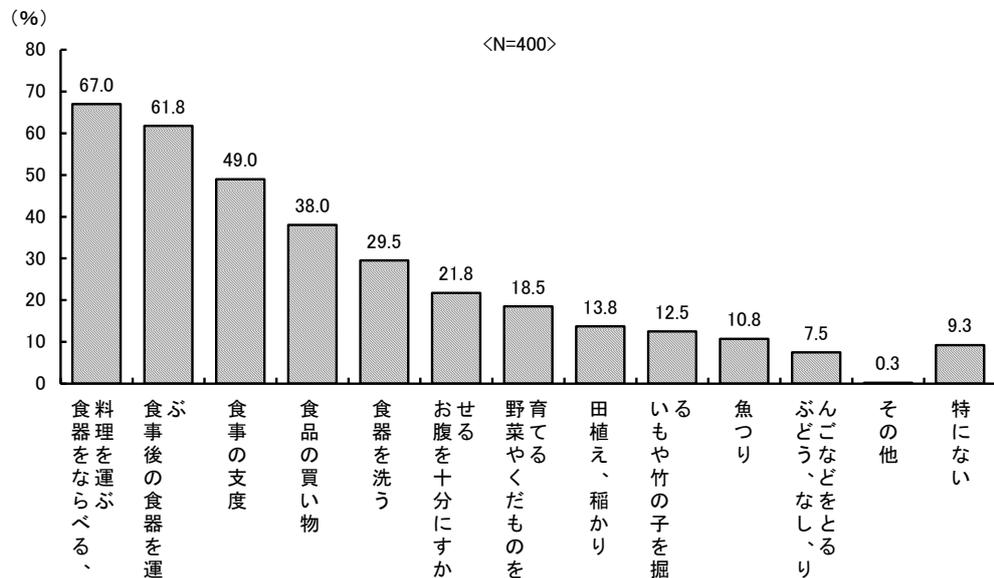
また、前項で“はしを正しく持つ”ように《言われている人》は「正しく持っている」割合が8割弱(78.5%)と、《言われていない人》(67.7%)より10ポイントほど高くなっています。

◆7年前の調査と比較すると、「正しく持っている」割合は58.0%→72.5%と、14ポイントほど高くなっています。

4. 食べ物や食事について、行ってきたこと

「食器をならべる、料理を運ぶ」(67.0%)、「食事後の食器を運ぶ」(61.8%)、「食事の支度」(49.0%)がトップ3

図 26. 食べ物や食事について、行ってきたこと（複数回答）



性別	男子 <n=200>	56.5	58.5	42.5	33.5	22.5	25.0	17.5	12.0	11.0	14.0	6.5	0.5	13.5
女子 <n=200>	77.5	65.0	55.5	42.5	36.5	18.5	19.5	15.5	14.0	7.5	8.5	-	5.0	
学校	小学生 <n=200>	70.5	62.5	45.5	42.0	28.5	18.5	23.5	15.5	16.0	11.5	7.5	-	7.0
	中学生 <n=200>	63.5	61.0	52.5	34.0	30.5	25.0	13.5	12.0	9.0	10.0	7.5	0.5	11.5

食べ物や食事について、これまで行ってきたこと聞いたところ、「食器をならべる、料理を運ぶ」(67.0%)が最も多く、次いで「食事後の食器を運ぶ」(61.8%)、「食事の支度」(49.0%)、「食品の買い物」(38.0%)、「食器を洗う」(29.5%)など、“食卓（食事）まわり”のことが上位にあげられています。そのほか「お腹を十分にすかせる」(21.8%)、「野菜やくだものを育てる」(18.5%)、「田植え、稲かり」(13.8%)、「いもや竹の子を掘る」(12.5%)、「魚つり」(10.8%)など、いろいろなことを経験しているようです。

性別にみると、全般的に“食卓（食事）まわり”のことをはじめ、《男子》より《女子》の方が高率を示している項目が多く、《女子》の方がいろいろなことを経験していることがうかがえます。

学校別にみても、いずれもトップ3は「食器をならべる、料理を運ぶ」、「食事後の食器を運ぶ」、「食事の支度」があげられています。

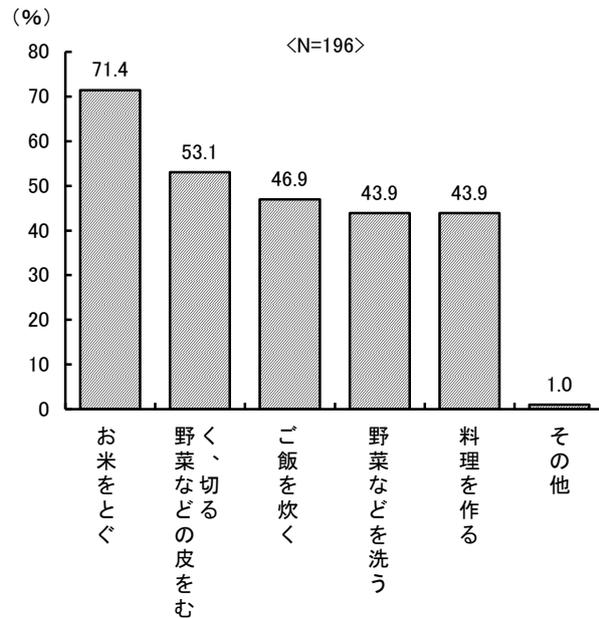
◆7年前の調査と比較すると、トップ3は7年前と同じで、「食器をならべる、料理を運ぶ」(57.8%→67.0%)、「食事後の食器を運ぶ」(49.5%→61.8%)、「食事の支度」(24.8%→49.0%)となっています。3項目とも比率がアップしています。

4-1. 『食事の支度』でしていること

「お米をとぐ」(71.4%)、「野菜などの皮をむく、切る」(53.1%)、「ご飯を炊く」(46.9%)、「料理を作る」(43.9%)、「野菜などを洗う」(43.9%)など“食事の支度”はいろいろ

●“作る料理”は、「カレー」(34件)、「味噌汁」(13件)、「チャーハン」(11件)がベスト3

図 27. 『食事の支度』でしていること（複数回答）



性別	男子 <n=85>	67.1	38.8	45.9	29.4	34.1	1.2
	女子 <n=111>	74.8	64.0	47.7	55.0	51.4	0.9

“食事の支度”をする人（196名）に、どんなことをしているか聞いてみたところ、「お米をとぐ」（71.4%）が最も多く、以下「野菜などの皮をむく、切る」（53.1%）、「ご飯を炊く」（46.9%）、「料理を作る」（43.9%）、「野菜などを洗う」（43.9%）が続いています。

性別にみると、全ての項目で《男子》より《女子》の方が高率を示しており、《女子》の方が多岐にわたって食事の支度を手伝っているようです。

表 2. 食事の支度で作った料理（自由回答：複数回答）

順位		件数	性別	
			男子	女子
1	カレー	34	4	30
2	味噌汁	13	4	9
3	チャーハン	11	4	7
4	卵焼き	8	4	4
5	シチュー	7	0	7
	ハンバーグ	7	2	5
7	焼きそば	6	1	5
8	オムライス	5	1	4
	ギョウザ	5	3	2
	その他	53	20	33

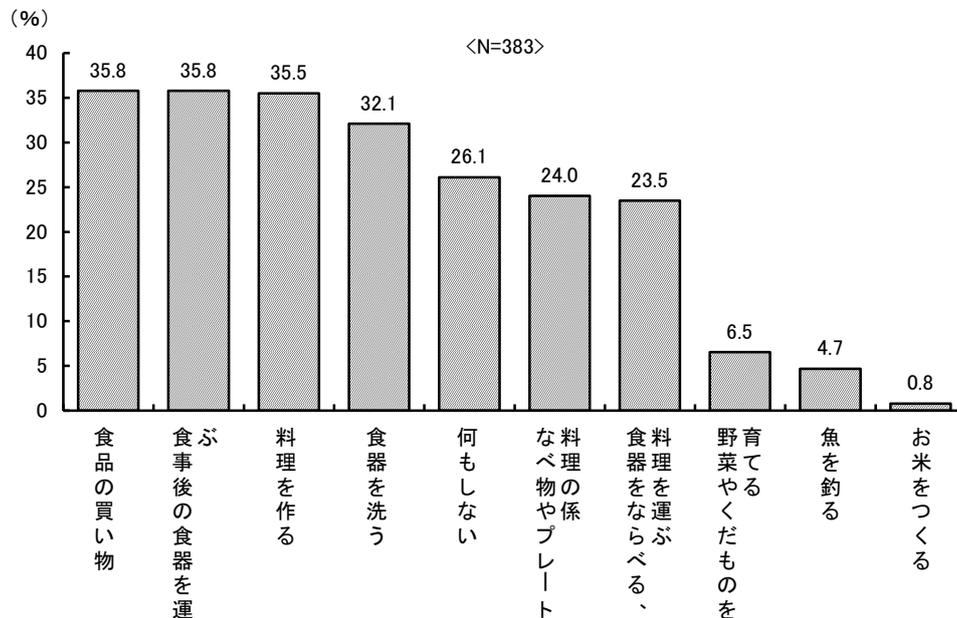
“料理を作る”という人に、どんな料理を作っているのかをみると、「カレー」（34件）が最も多く、以下「味噌汁」（13件）、「チャーハン」（11件）、「卵焼き」（8件）、「ハンバーグ」「シチュー」（各7件）があげられています。

性別にみると、《男子》は「カレー」「味噌汁」「チャーハン」「卵焼き」（各4件）とバラついています。《女子》では「カレー」（30件）が群を抜いています。

5. 食べ物や食事について、父親はどんなことをしているか

7割強(73.9%)の父親が、「食品の買い物」(35.8%)、「食事後の食器を運ぶ」(35.8%)、「料理を作る」(35.5%)、「食器を洗う」(32.1%)などをしている

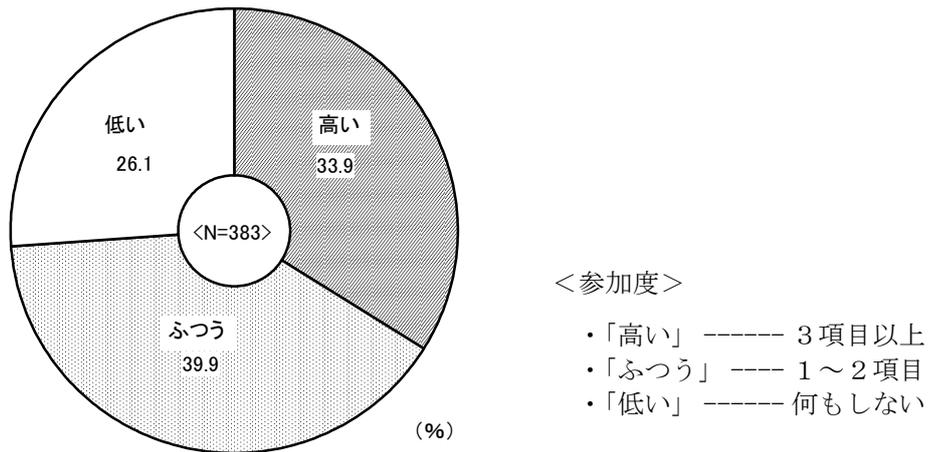
図 28. 食べ物や食事について、父親がしていること（父親がいる家庭：複数回答）



食べ物や食事について、父親はどんなことをしているか子供に聞いてみたところ、「何もしない」という人は26.1%で、残りの7割強(73.9%)が何らかのことをしているとみています。

その内容は、「食品の買い物」と「食事後の食器を運ぶ」(各35.8%)が同率トップ、以下「料理を作る」(35.5%)、「食器を洗う」(32.1%)、「なべ物やプレート料理の係」(24.0%)、「食器をならべる、料理を運ぶ」(23.5%)が続いています。

図 29. 父親の家事参加度



上記で父親がしていることの数から“家事参加度”をみると、3項目以上している「高い」にランクされる父親は3人に1人（33.9%）の割合となっています。

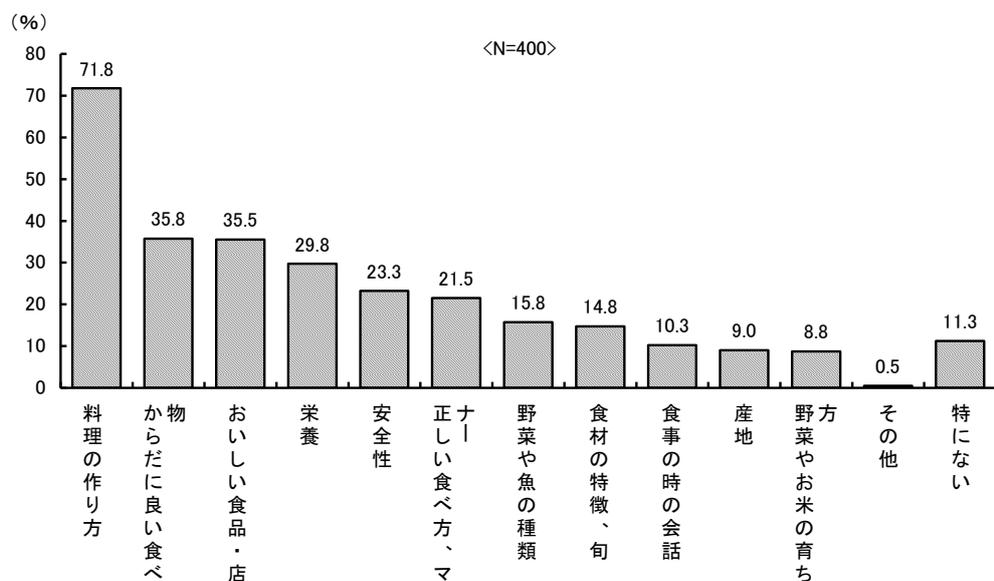
◆7年前の調査と比較すると、「何もしない」という割合が33.3%→26.1%にダウンしており、子供がみた父親の“家事参加度”はアップしているようです。今回トップ3の「食品の買い物」（19.7%→35.8%）、「食事後の食器を運ぶ」（16.4%→35.8%）、「料理を作る」（33.6%→35.5%）はいずれも比率がアップしています。また、“家事参加度”が「高い」父親が17.7%→33.9%と、大幅に増えています。

1. “食”について、知りたいと思っていること・関心があること

「料理の作り方」(71.8%)が第一。以下「からだに良い食べ物」(35.8%)、「おいしい食品・店」(35.5%)、「栄養」(29.8%)、「安全性」(23.3%)、「正しい食べ方、マナー」(21.5%)などに関心がある

総じて《女子》の関心は高い

図 30. 料理や食べ物、食べ方について、知りたいと思っていること・関心をもっていること（複数回答）



性別	男子 <n=200>	60.5	31.0	33.5	28.5	22.5	18.5	18.0	16.0	8.5	9.5	9.5	-	18.0
	女子 <n=200>	83.0	40.5	37.5	31.0	24.0	24.5	13.5	13.5	12.0	8.5	8.0	1.0	4.5
学校	小学生 <n=200>	71.5	33.0	31.0	24.0	22.0	18.5	15.0	13.5	11.0	9.5	11.5	0.5	12.0
	中学生 <n=200>	72.0	38.5	40.0	35.5	24.5	24.5	16.5	16.0	9.5	8.5	6.0	0.5	10.5

料理や食べ物、食べ方など“食”について、日頃から知りたいと思っていることや、関心をもって見聞きしていることはどんなことか聞いてみたところ、「特にない」(11.3%)という人が1割強いますが、残りの9割弱(88.8%)は“何らかに関心がある”と答えています。“食”に関する関心の高さがうかがわれます。

どんなことかをみると、「料理の作り方」(71.8%)をあげる人が群を抜いて多く、以下「からだに良い食べ物」(35.8%)、「おいしい食品・店」(35.5%)、「栄養」(29.8%)、「安全性」(23.3%)、「正しい食べ方、マナー」(21.5%)が続いています。

性別にみても、いずれも「料理の作り方」が群を抜いていますが、その割合は《女子》(83.0%)の方が《男子》(60.5%)より20ポイント以上高くなっています。全般的に《女子》の方が高率を示している項目が多く、《女子》の方がいろいろなことに関心があることがうかがわれます。

学校別にみても、いずれも「料理の作り方」が7割強で群を抜いています。総じて《小学生》より《中学生》の方が関心は高いようです。

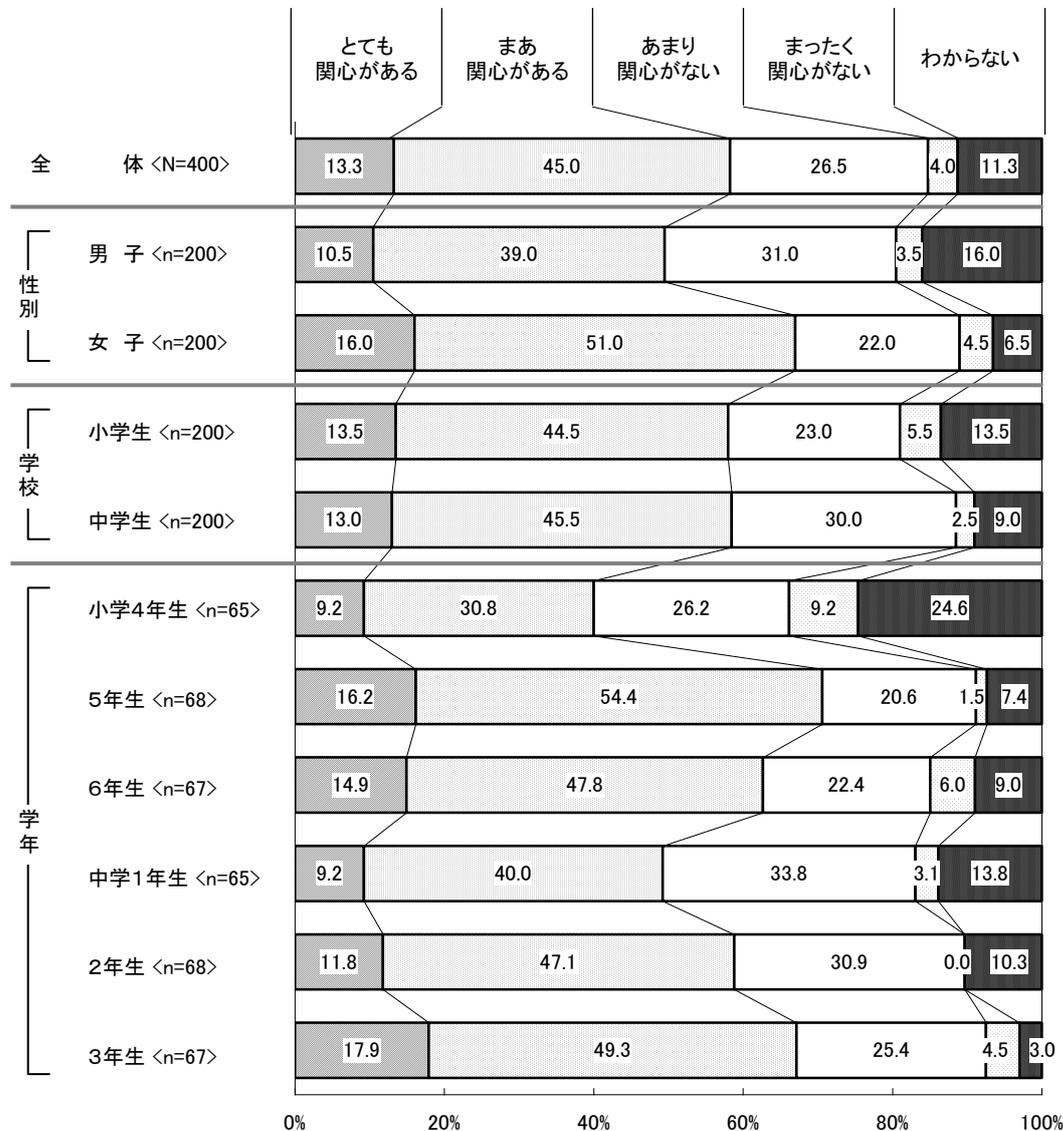
◆ 7年前の調査と比較すると、7年前も同じ項目がトップ3にあげられています。トップの「料理の作り方」は32.8%→71.8%と大きく増えており、7年前に比べて料理への関心・興味度がアップしたようです。続く「からだに良い食べ物」(28.5%→35.8%)、「おいしい食品・店」(27.8%→35.5%)も増えています。

2. “食の安全” への関心度

「とても関心がある」(13.3%)、「まあ関心がある」(45.0%)を合わせて、ほぼ5人に3人が“関心がある”(58.3%)

●“関心がある”ことは、「保存期間」(45.9%)、「農業」(38.6%)、「鳥インフルエンザ」(38.2%)がトップ3

図 31. “食の安全” ということに、どのくらい関心があるか。



“食の安全” ということに、どのくらい関心があるか聞いてみたところ、「とても関心がある」(13.3%) という人は1割強にとどまっていますが、「まあ関心がある」(45.0%) が半数近くみられ、合わせて6割弱(58.3%)が“関心がある”と答えています。

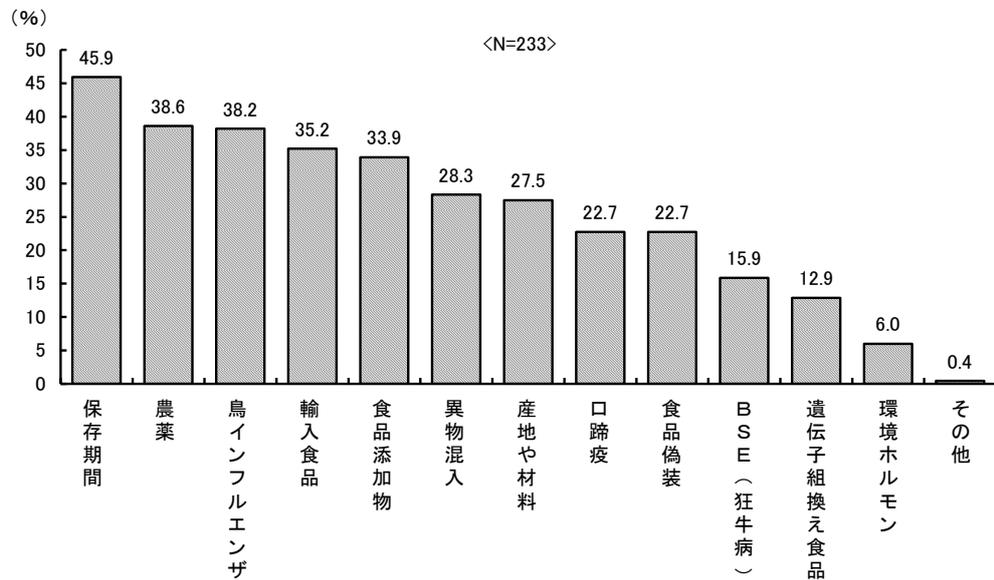
性別にみると、“関心がある”割合は《男子》(49.5%)より《女子》(67.0%)の方が20ポイント近く高くなっています。

学校別では、《小学生》が58.0%、《中学生》が58.5%と、同程度の関心度です。

なお、《中学生の女子》では関心度が7割強(73.0%)と、突出しているのが目立ちます。

◆7年前の調査と比較すると、“関心がある”割合が51.5%→58.3%となっており、“食の安全”に対する関心度は確実にアップしているようです。

図 32. 関心があるのはどんなことか（複数回答）



性別	男子 <n=99>	45.5	34.3	38.4	36.4	34.3	26.3	20.2	22.2	17.2	15.2	14.1	4.0	1.0
	女子 <n=134>	46.3	41.8	38.1	34.3	33.6	29.9	32.8	23.1	26.9	16.4	11.9	7.5	-
学校	小学生 <n=116>	45.7	38.8	37.9	35.3	28.4	22.4	29.3	21.6	12.9	12.1	7.8	4.3	0.9
	中学生 <n=117>	46.2	38.5	38.5	35.0	39.3	34.2	25.6	23.9	32.5	19.7	17.9	7.7	-

“関心派”がどんなことに関心があるのかをみると、「保存期間」(45.9%)が最も多く、以下「農薬」(38.6%)、「鳥インフルエンザ」(38.2%)、「輸入食品」(35.2%)、「食品添加物」(33.9%)が続いています。

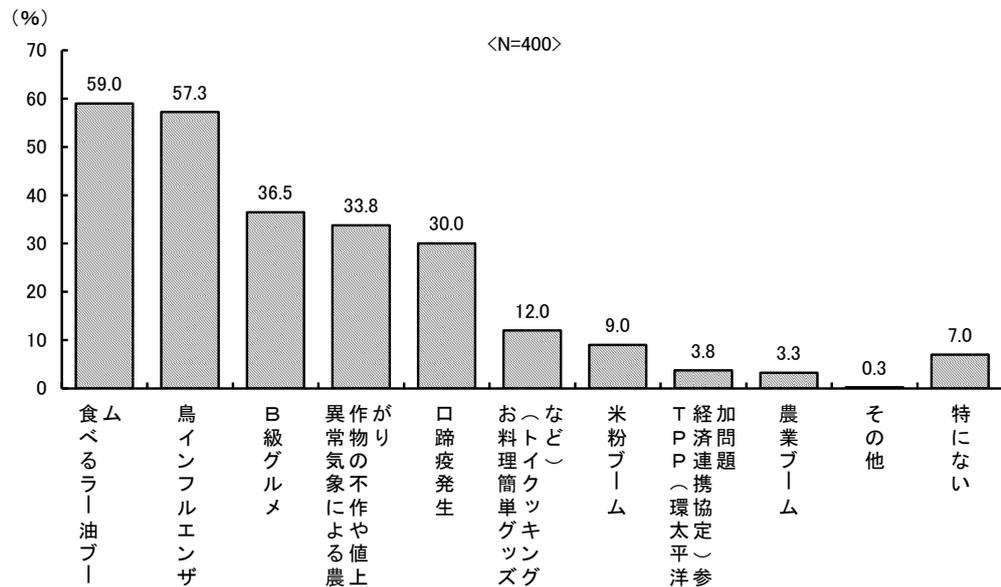
性別にみると、《男子》では「保存期間」(45.5%)、「鳥インフルエンザ」(38.4%)、「輸入食品」(36.4%)が、《女子》では「保存期間」(46.3%)、「農薬」(41.8%)、「鳥インフルエンザ」(38.1%)がそれぞれトップ3です。

学校別にみても、いずれも「保存期間」がトップですが、《中学生》では「食品添加物」(39.3%)が《小学生》(28.4%)に比べ10ポイントほど高く、第2位になっているのが目につきます。また、「異物混入」(小学生22.4%、中学生34.2%)、「食品偽装」(同12.9%、32.5%)の差も目立ちます。

3. ここ1年間の“食”に関するニュースで、印象に残っていること

「食べるラー油ブーム」(59.0%)、「鳥インフルエンザ」(57.3%)、「B級グルメ」(36.5%)がトップ3

図 33. ここ1年間の“食”に関するニュースで、印象に残っていること（3つまで）



性別	男子 <n=200>	女子 <n=200>
食べるラー油ブーム	56.5	61.5
鳥インフルエンザ	58.0	56.5
B級グルメ	38.0	35.0
異常気象による農作物の不作や値上がり	30.5	37.0
口蹄疫発生	34.5	25.5
お料理簡単グッズ	6.5	17.5
米粉ブーム	8.0	10.0
TPP（環太平洋経済連携協定）	5.0	2.5
農業ブーム	3.0	3.5
その他	-	0.5
特になし	6.5	7.5

ここ1年間の“食”に関するニュースやキーワードで、印象に残っていることを3つまであげてもらったところ、「食べるラー油ブーム」(59.0%)が最も多く、以下「鳥インフルエンザ」(57.3%)、「B級グルメ」(36.5%)、「異常気象による農作物の不作や値上がり」(33.8%)、「口蹄疫発生」(30.0%)の順となっています。

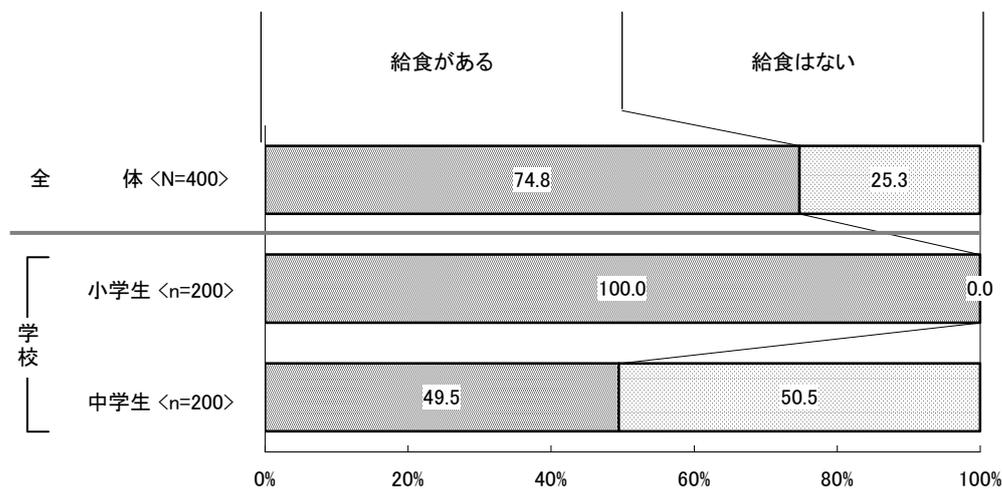
性別にみると、「男子」では「鳥インフルエンザ」(58.0%)、「食べるラー油ブーム」(56.5%)、「B級グルメ」(38.0%)が、「女子」では「食べるラー油ブーム」(61.5%)、「鳥インフルエンザ」(56.5%)、「異常気象による農作物の不作や値上がり」(37.0%)が、それぞれトップ3です。

VI 学校生活における“食”と“農”とのかかわり

1. 『学校給食』が好きか

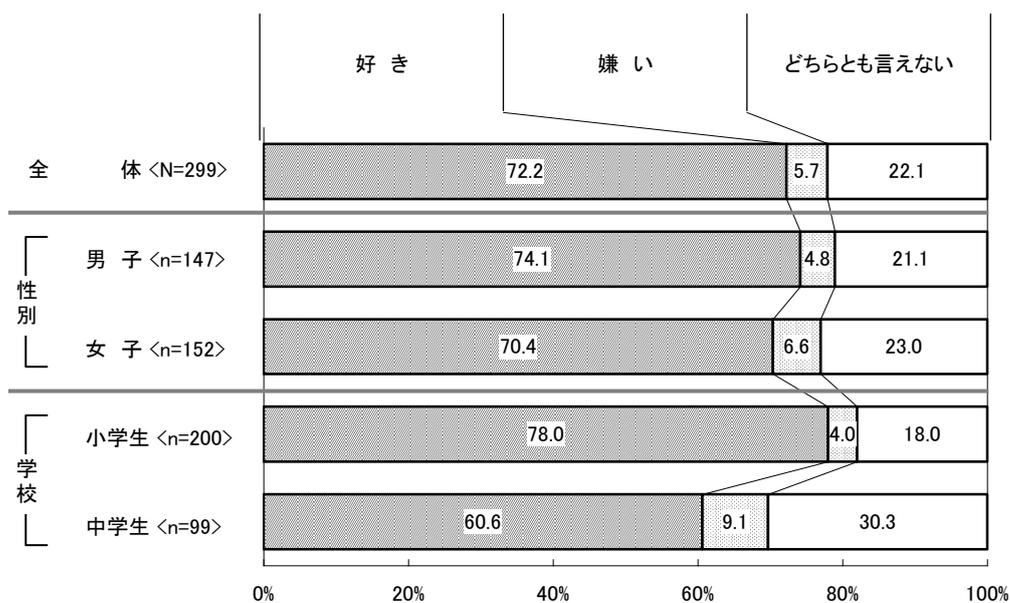
『学校給食』が「ある」人(74.8%:小学校 100%、中学校 49.5%)の7割強が「好き」(72.2%)、「嫌い」な人は少数(5.7%)

図 34. 『学校給食』の有無



学校給食の有無をみると、「給食がある」、すなわち“給食を食べている”人は小学校が全員(100%)、中学校が半数(49.5%)、全体では4人に3人(74.8%)の割合となっています。

図 35. 『学校給食』が好きか



“給食を食べている”人に、その好き嫌いを聞いてみたところ、「好き」(72.2%)という人が7割強と、圧倒的に多くなっています。

性別にみると、「好き」という割合は《男子》(74.1%)の方が《女子》(70.4%)より一層高率です。

学校別では、《小学生》(78.0%)の方が《中学生》(60.6%)より17ポイントほど高くなっています。

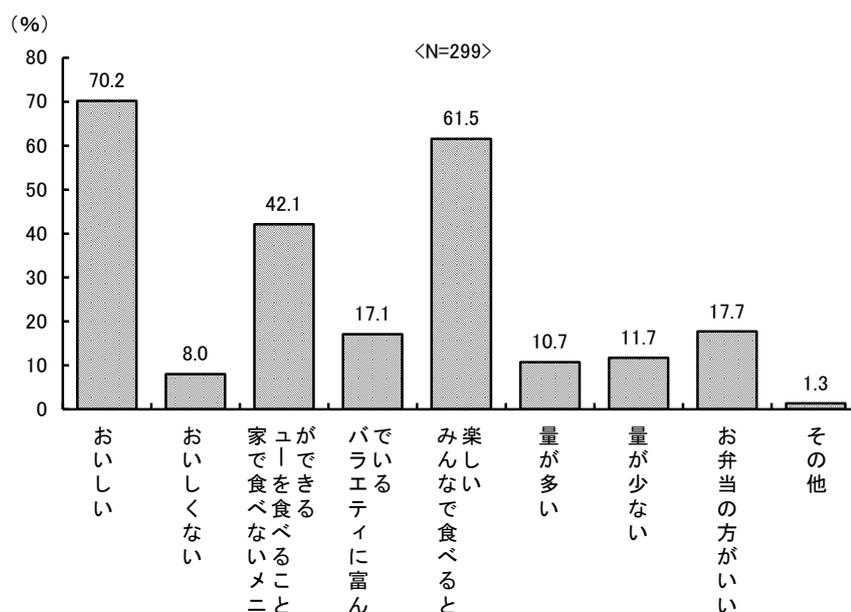
◆7年前の調査と比較すると、「給食がある」、すなわち給食を食べている人の割合は69.0%→74.8%と増えています。

“給食を食べている”人の、その好き嫌いをみると、「好き」が55.1%→72.2%と、大幅にアップしており、年々、給食がおいしくなっているようです。

1-1. 学校給食について、どのように感じているか

「おいしい」(70.2%)、「みんなで食べると楽しい」(61.5%)、「家で食べないメニューを食べることができる」(42.1%)など、学校給食には“良いイメージ”を持っている

図 36. 学校給食について、どのように感じているか



性別	男子 <n=147>	69.4	5.4	41.5	17.7	62.6	8.2	17.7	19.7	-
	女子 <n=152>	71.1	10.5	42.8	16.4	60.5	13.2	5.9	15.8	2.6
学校	小学生 <n=200>	76.0	4.0	46.0	16.5	66.0	9.5	10.5	19.0	0.5
	中学生 <n=99>	58.6	16.2	34.3	18.2	52.5	13.1	14.1	15.2	3.0
学校給食	好き <n=216>	88.4	0.5	49.5	20.4	64.4	8.8	13.0	6.5	-
	嫌い <n=17>	5.9	76.5	5.9	-	23.5	23.5	11.8	64.7	5.9
	どちらとも言えない <n=66>	27.3	15.2	27.3	10.6	62.1	13.6	7.6	42.4	4.5

学校給食が“ある(食べている)”人に、学校給食について、どのように感じているか聞いてみたところ、「おいしい」(70.2%)が最も多く、以下「みんなで食べると楽しい」(61.5%)、「家で食べないメニューを食べることができる」(42.1%)といった“良いイメージ”が続いています。反面、「お弁当の方がいい」(17.7%)、「量が少ない」(11.7%)、「量が多い」(10.7%)、「おいしくない」(8.0%)と感じている人もいます。

性別や学校別にみても、いずれも「おいしい」、「みんなで食べると楽しい」、「家で食べないメニューを食べることができる」が上位にあげられています。

なお、「量が少ない」という評価は、《女子》(5.9%)より《男子》(17.7%)の方が、「量が多い」は《男子》(8.2%)より《女子》(13.2%)の方がそれぞれ高くなっています。

また、学校給食の好き嫌い別にみると、“好き”な人は「おいしい」(88.4%)、「みんなで食べると楽しい」(64.4%)、「家で食べないメニューを食べることができる」(49.5%)など“良いイメージ”が一層高率になっています。

サンプルは少数(17名)ですが、“嫌い”な人では「おいしくない」(76.5%)、「お弁当の方がいい」(64.7%)が目立ちます。

◆7年前の調査と比較すると、「おいしい」が37.0%→70.2%と大幅にアップしており、年々、給食がおいしくなっていることを裏付けています。

1-2. 給食のメニューで、好きな料理、嫌いな料理

“好きな料理”は、「カレー」(66件)、「あげパン」(42件)、「キムチチャーハン」(17件)、「ラーメン」(16件)など
 “嫌いな料理”は、「特になし」(73件)が多いが、料理としては「豆が入っている料理」(19件)、「ゴーヤチャンプル」「魚料理」(各11件)など

表 3. 給食のメニューで、好きな料理、嫌いな料理 (自由回答：複数回答)

【好きな料理】

順位		件数	性別	
			男子	女子
1	カレー	66	38	28
2	あげパン	42	19	23
3	キムチチャーハン	17	10	7
4	ラーメン	16	13	3
5	うどん	8	2	6
6	ミートソーススパゲティ	7	2	5
7	シチュー	6	1	5
	ハンバーグ	6	4	2
	ピピンパ	6	3	3
	その他	112	50	62
	特になし	10	4	6

【嫌いな料理】

順位		件数	性別	
			男子	女子
1	豆が入っている料理	19	6	13
2	ゴーヤチャンプル	11	4	7
	魚料理	11	4	7
4	野菜サラダ	9	6	3
5	海藻サラダ	7	5	2
	野菜	7	4	3
7	チーズパン	6	3	3
8	カレー	5	2	3
	きのこが入っている料理	5	2	3
	煮物	5	3	2
11	ゆかりごはん	4	3	1
	その他	135	58	77
	特になし	73	47	26

ここでは、給食のメニューで、好きな料理、嫌いな料理を具体的にあげてもらいました。

まず、「好きな料理」をみると、「カレー」(66件)が最も多く、以下「あげパン」(42件)、「キムチチャーハン」(17件)、「ラーメン」(16件)、「うどん」(8件)が続いています。

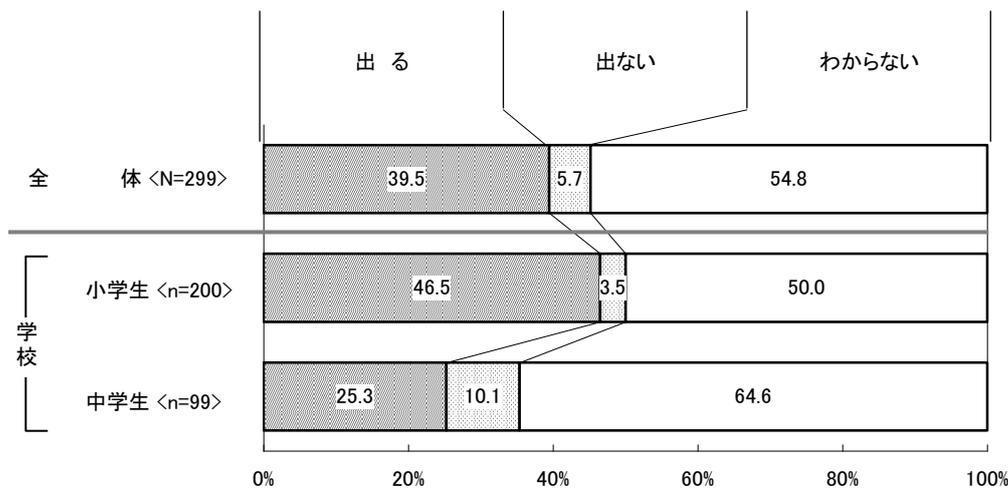
性別にみると、《男子》は「カレー」(38件)、「あげパン」(19件)、「ラーメン」(13件)がベスト3です。《女子》は「カレー」(28件)と「あげパン」(23件)が他を大きくリードしています。

次に、「嫌いな料理」をみると、「特になし」(73件)という人が多くなっていますが、料理としては「豆が入っている料理」(19件)が最も多く、以下「ゴーヤチャンプル」「魚料理」(各11件)、「野菜サラダ」(9件)が続いています。

1-3. 給食に地元（自分が住んでいる地域）の食べ物や材料が出てくるか

「わからない」(54.8%)という人が過半数を占めるが、4割(39.5%)が「出る」
地元の材料は、「ダイコン」(31件)、「小松菜」(12件)、「はま菜」(10件)がトップ3

図 37. 給食に、地元の食べ物や材料が出てくるか



給食に地元（自分が住んでいる地域）の食べ物や材料が出てくるか聞いてみたところ、「わからない」(54.8%)という人が過半数を占めていますが、4割(39.5%)が「出る」と答えています。

学校別に「出る」割合をみると、《小学校》が46.5%、《中学校》が25.3%です。

◆7年前の調査と比較すると、「出る」割合が28.6%→39.5%と増えており、地元の食材などを使い、おいしい給食を出していることがうかがえます。

表 4. 給食に出る地元の食材（自由回答：複数回答）

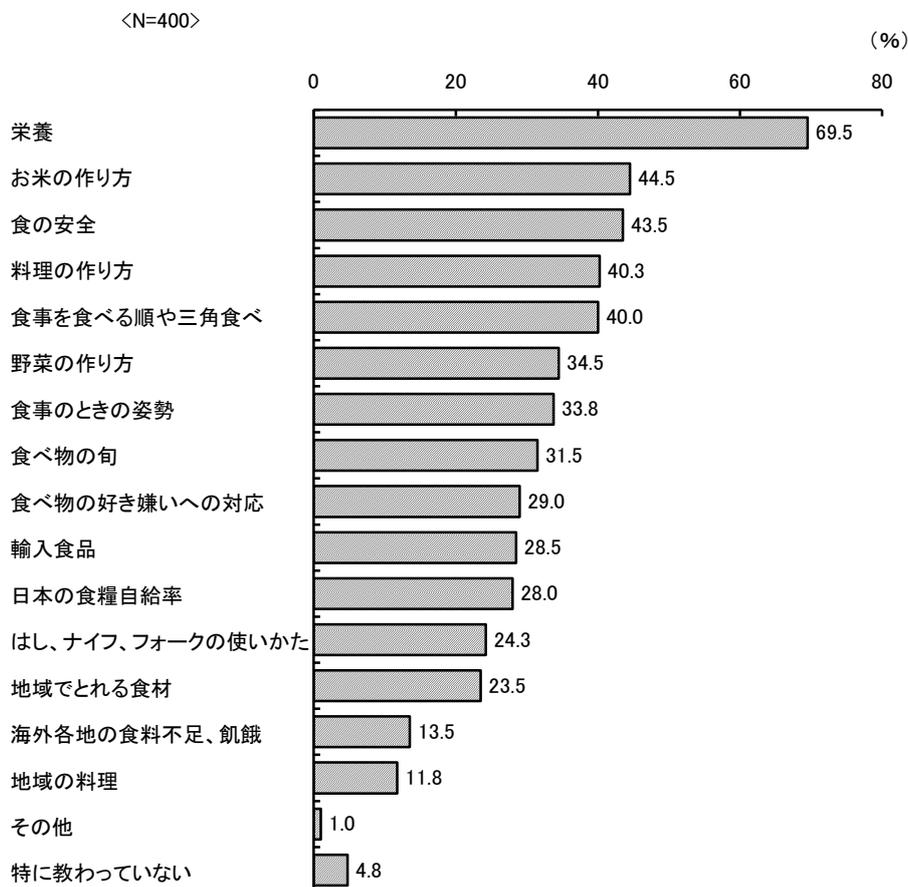
順位		件数	学校	
			小学生	中学生
1	ダイコン	31	23	8
2	小松菜	12	12	0
3	はま菜	10	10	0
4	ほうれん草	9	9	0
	米	9	8	1
6	ニンジン	7	6	1
7	うどん	5	4	1
	キャベツ	5	5	0
	野菜	20	14	6
	その他	52	42	10

では、どんな地元の食材が出るのか具体的にあげてもらったところ、「ダイコン」（31件）が最も多く、以下「小松菜」（12件）、「はま菜」（10件）、「ほうれん草」「米」（各9件）が続いています。

2. 学校で、“食”について教わったこと

大半の人が、「栄養」(69.5%)、「お米の作り方」(44.5%)、「食の安全」(43.5%)、「料理の作り方」(40.3%)などについて“教わった”(95.3%)

図 38. 学校で、“食”についてどんなことを教わったか（複数回答）



学校で、“食”についてどんなことを教わったか聞いてみたところ、「特に教わっていない」(4.8%)という人は少数で、大半の人は“教わった”(95.3%)と答えています。

具体的には、「栄養」(69.5%)が最も多く、以下「お米の作り方」(44.5%)、「食の安全」(43.5%)、「料理の作り方」(40.3%)、「食事を食べる順や三角食べ」(40.0%)、「野菜の作り方」(34.5%)、「食事のときの姿勢」(33.8%)が続いています。学校教育で“食”について、いろいろなことを学んでいるようです。

◆7年前の調査と比較して、今回上位にあげられた項目の変化をみると、「栄養」(40.8%→69.5%)、「お米の作り方」(42.3%→44.5%)、「食の安全」(22.0%→43.5%)、「料理の作り方」(25.3%→40.3%)となっており、大きく比率がアップしている項目が多くなっています。学校教育において“食”とのかかわり度が増えてきているのでしょうか。

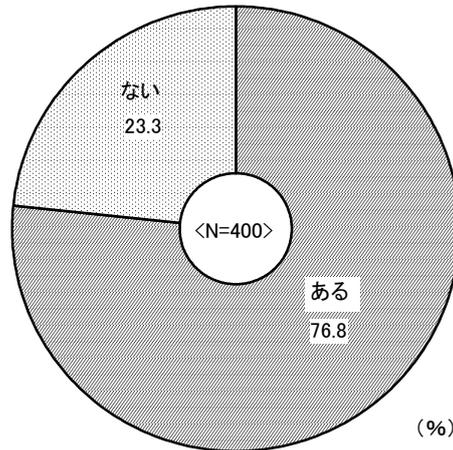
3. 学校でお米や野菜を育てたこと

4人に3人強が「ある」(76.8%)

育てたものは、「米」(215件)、「トマト」(72件)、「オクラ」(64件)、「ゴーヤ」(55件)、「ミニトマト」(47件)など

●学校でお米や野菜を育てたことが“ない”人のほぼ半数が育ててみたいと「思う」(45.2%)

図 39. 学校でお米や野菜を育てたこと



学校でお米や野菜を育てたことがあるか聞いてみたところ、「ある」(76.8%)という人4人に3人強の割合となっています。お米や野菜を育てることを通じた“食”の教育も盛んのようにです。

◆7年前の調査と比較すると、育てたことが「ある」という割合は62.3%→76.8%と増えており、“食”とのかわり度が増えてきていることを裏付けています。

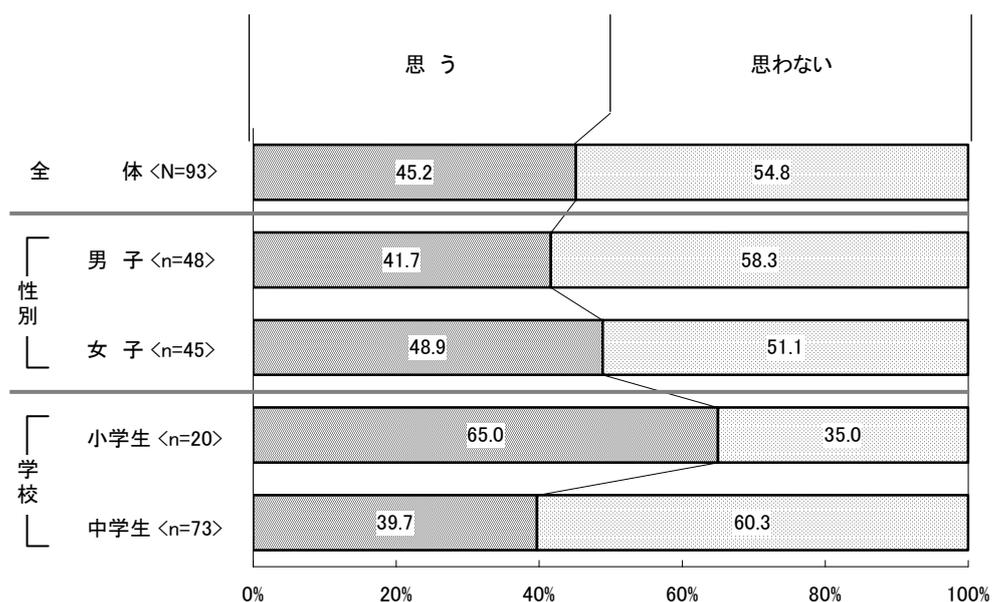
表 5. 学校で育てたもの（自由回答：複数回答）

順位		件数	性別	
			男子	女子
1	米	215	103	112
2	トマト	72	28	44
3	オクラ	64	33	31
4	ゴーヤ	55	23	32
5	ミニトマト	47	20	27
6	サツマイモ	43	23	20
7	ナス	42	19	23
8	キュウリ	36	16	20
9	ダイコン	29	15	14
10	ジャガイモ	19	10	9
11	ピーマン	18	5	13
12	ヘチマ	16	5	11
	枝豆	16	7	9
14	トウモロコシ	13	5	8
	その他	75	37	38

では、どんなものを育てたのでしょうか。

具体的にあげてもらった結果、「米」（215件）が圧倒的に多く、以下「トマト」（72件）、「オクラ」（64件）、「ゴーヤ」（55件）、「ミニトマト」（47件）、「サツマイモ」（43件）、「ナス」（42件）が続いています。

図 40. 学校でお米や野菜を育ててみたいと思うか



学校でお米や野菜を育てた経験が“ない”人(93名)に、育ててみたいと思うか聞いてみたところ、「思う」(45.2%)という人がほぼ半数の割合となっています。

性別にみると、「思う」割合は《男子》(41.7%)より《女子》(48.9%)の方が高めです。

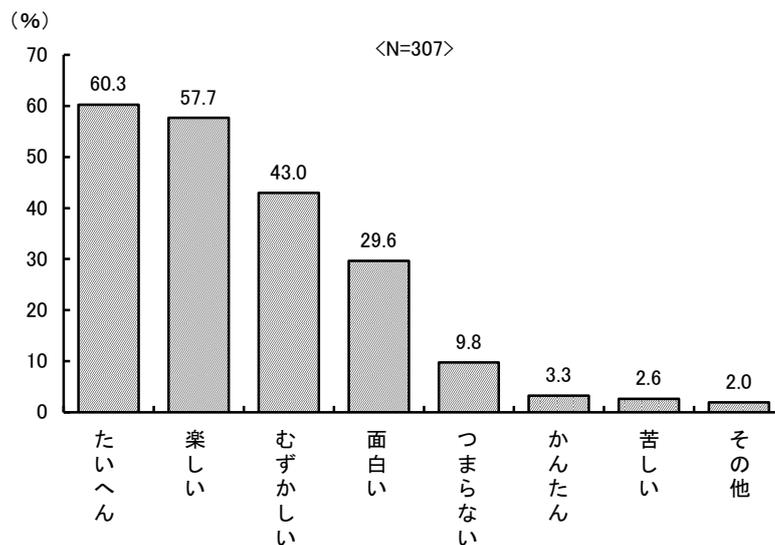
また、学校別にみると、《小学生》では65.0%と過半数を占めていますが、《中学生》は4割(39.7%)にとどまっています。

◆7年前の調査と比較すると、育ててみたいと「思う」割合が43.0%→45.2%とあまり変わりません。

3-1. お米や野菜を育ててみて、どう思ったか

「たいへん」(60.3%)、あるいは「むずかしい」(43.0%)が、「楽しい」(57.7%)、「面白い」(29.6%)という感想も多い

図 41. お米や野菜を育ててみて、どう思ったか（複数回答）



性別	男子 <n=152>	56.6	48.7	43.4	28.9	11.8	4.6	4.6	2.6
	女子 <n=155>	63.9	66.5	42.6	30.3	7.7	1.9	0.6	1.3

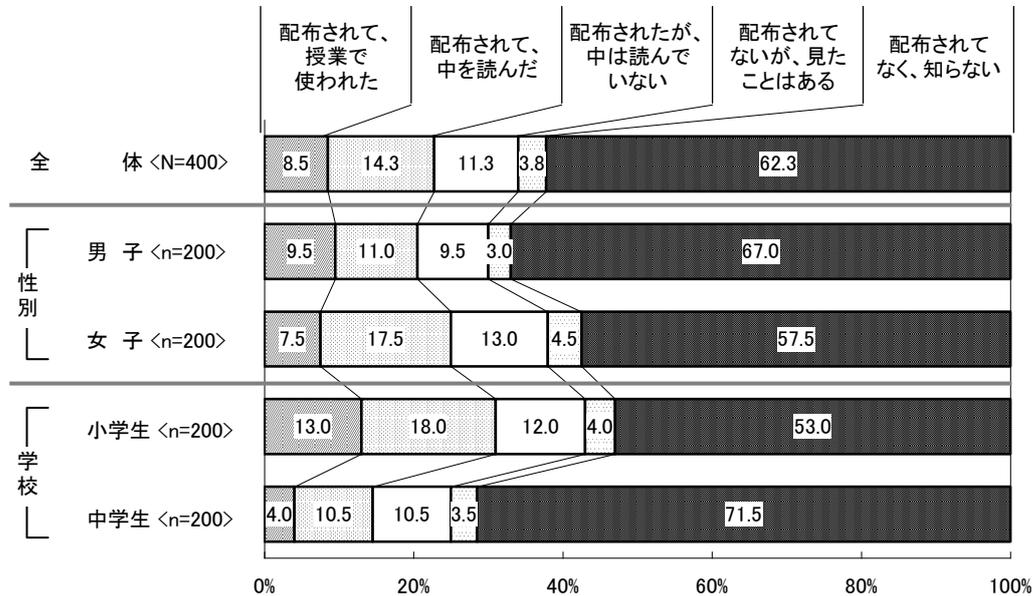
お米や野菜を育ててみて、どう思ったか聞いてみたところ、「たいへん」(60.3%)という人が最も多くなっています。さらに「むずかしい」(43.0%)、少数だが「つまらない」(9.8%)、「苦しい」(2.6%)など、否定的な感想があげられています。反面、「楽しい」(57.7%)、「面白い」(29.6%)と、育てることをエンジョイしているという感想も相当数みられます。

性別にみると、「たいへん」という割合は《男子》(56.6%)より《女子》(63.9%)の方が高めですが、「楽しい」も《男子》(48.7%)より《女子》(66.5%)の方が高くなっています。

4. 補助教材『農業とわたしたちの暮らし』を知っているか

「配布されて、授業で使われた」(8.5%)という人は1割未満だが、「配布されて、中を読んだ」(14.3%)を合わせると、“読んだ”人が2割強(22.8%)

図 42. 補助教材「農業とわたしたちの暮らし」を知っているか



J Aバンクが配布している、補助教材「農業とわたしたちの暮らし」を知っているか聞いてみたところ、「配布されて、授業で使われた」(8.5%)、「配布されて、中を読んだ」(14.3%)を合わせて、“読んだ”という人が2割強(22.8%)います。さらに「配布されたが、中は読んでいない」(11.3%)、「配布されていないが、見たことはある」(3.8%)を加えた“知っている”という人は4割弱(37.8%)です。

性別にみると、“知っている”割合は《男子》(33.0%)より《女子》(42.5%)の方が10ポイントほど高くなっています。また、“読んだ”割合は《男子》が20.5%、《女子》が25.0%です。

学校別にみると、“知っている”割合は《中学生》(28.5%)より《小学生》(47.0%)の方が20ポイント近く高くなっています。また、“読んだ”割合も《中学生》(14.5%)より《小学生》(31.0%)の方が高くなっています。また、《小学生》では「配布されて、授業で使われた」(13.0%)が1割を超えています。